



獨協医科大学精神神経医学教室 同 門 会 誌



第 9 号
2017

目 次

1. 巻頭言	黒田仁一	1
2. 下野の国に来て早や14年	下田和孝	2
3. 第9号・特集「私のunforgettable」		4
	藤沼仁至（医療法人栄仁会 大平下病院）	
	朝日晴彦（医療法人朝日会 朝日病院）	
	清水輝彦（医療法人清水桜が丘病院）	
	小杉真一（医療法人秀明会 大澤台病院）	
	岡田正樹（医療法人圭愛会 日立梅ヶ丘病院）	
	下田和孝	
	川俣安史	
4. 入院統計および外来統計	岡安寛明 藤平明広	16
5. 教室便り	人事往来	19
	2017年1月現在の教室スタッフ	19
	新入局員挨拶 竹内祥貴 白木亮祐	21
6. 研究紹介	川俣安史	23
7. 近況報告	石黒 慎（こころの花クリニック）	24
8. 獨協医科大学・新潟大学対抗戦レポート2016	石川高明	26
9. 写真で見る講座・大学の動きおよび学会出張記		28
10. 平成28年度獨協医科大学精神神経医学教室同門会総会議事録		41
11. 2016年の講座業績		42
12. 編集後記		49

巻頭言

獨協医科大学精神神経医学教室同門会 世話人代表

黒 田 仁 一

同門の皆さんいかがお過ごしでしょうか。この文章を書くに当たり、今年の巻頭言を読み返してみました。10月21日の日付でうんざりするような秋の長雨がやっと上がったとあり、水害に遭われた方へのお見舞いが述べられています。異常気象といわれてきましたが常態化してきているようで心配です。改めて水害に遭われた方へお見舞い申し上げます。

さてこの一年を振り返りますと、まず平成28年12月10日恒例の同門会総会と医局との共催の忘年会在宇都宮東武ホテルグランデで行われました。今回は日本専門医機構の理事であり、日本精神科病院協会の常務理事でもいらっしゃる、あいせい紀年病院理事長 森 隆夫先生をお招きし、「今後の精神科専門医制度の動向について」というタイトルで特別講演をお願いいたしました。皆さん関心が高い専門医制度が今後どのような方向に進むのか、新理事会誕生の経緯など、大変興味深いお話を伺うことができました。森先生ありがとうございました。なお平成28年度の宮坂賞には、熊本地震に際してDPATの隊員として現地に派遣され災害精神医療に貢献した藤平明広君が受賞されました。

平成29年2月24日には、平成28年度秋の受勲で瑞宝中綬章を受勲された大森健一先生の同門会主催の受勲祝賀会が宇都宮東武ホテルグランデにて行われました。大森先生は本学名誉教授で精神神経医学教室の二代目教授として教室の指導に当たられ、その後本学の学長、理事長も務められました。現在は滝澤病院の理事長を務められています。私にとっては入局以来面倒を見てもらっている恩師でもあります。遠方からも教え子たちが集まり、思い出話に花が咲きました。先生を支えてこられた奥様とゆっくり旅行でもと旅行券をプレゼントさせていただきました。先生の長寿とますますのご活躍をお祈りしております。

続いて6月3日には同じく宇都宮東武ホテルグランデにて下田和孝教授就任10周年祝賀会が開催されました。思えば多くの医局員が辞めてしまい、日常の診療もままならない状態であった獨協精神科に助教授として赴任され、持ち前のパワーと繊細な気遣いで医局の再建を成し遂げた下田教授の活躍に改めて敬意を表したいと思います。当日は高橋三郎客員教授をはじめ、新潟大学・染矢俊幸教授、滋賀医科大学・山田尚登教授、自治医科大学・須田史朗教授、日本精神科病院協会・山崎 學會長など多くの方々にご出席いただきました。発起人の一人として御礼申し上げます。下田先生によるバンド演奏もあり会は大いに盛り上がりました。個人的には30年以上前、都立松沢病院に派遣されていたとき、同じく滋賀医科大学から派遣されていた現・琵琶湖病院理事長、院長の石田展弥先生と旧交を温めることができました。下田先生のますますのご活躍を期待しております。

今年の総会と忘年会は12月2日(土)、宇都宮東武ホテルグランデで開催されます。今回は国立精神・神経医療センターの精神保健研究所所長補佐で精神保健計画研究部部長であり、厚生労働省「新しい精神保健指定医研修・審査のあり方に関する研究」班のリーダーを務めておられる山之内芳雄先生をお招きして、精神保健指定医制度改革の動向についてお話しいただく予定です。是非ご参加ください。

平成29年8月29日

下野の国に来て早や14年 Behavioral phenocopy（行動上の表現型模写）について

獨協医科大学精神神経医学講座 主任教授

下 田 和 孝

獨協医科大学へ母校・滋賀医科大学から助教授として赴任したのは2003年1月1日であったから、2017年1月で下野の国に来て15年目に入った。2017年5月で主任教授となって10年が経過した。赴任した時が45歳であったが、2017年6月で還暦となった（写真1参照）。

2017年6月3日に行われた主任教授就任10周年祝賀会でも述べたが、赴任当時は大変な時期もあった。しかし、毎年、何らかの形で入局者があり、少々スピードはゆっくりであるが医局員それぞれが地道に努力して精神保健指定医をきちんと取得し、英文原著で学位を取り、精神科専門医を取るというあたりまえのことをやってくれるようになってきた。学会賞を取る者もあり、種々の学会の役員をやるものもいて、また、文部科学研究費のような外部競争的資金も少しずつ取得できるようになってきた。自己採点すれば75点というところだろう。

この10年間で、私が、特に気を付けてきたことがある。医局は、家であり家族である、という意識である。イマドキの人たちには、「暑苦しいし、カンケーネー」かもしれないが、「残念ながらオマエたちは、すでにそうになっている」のである。アツクルシイ^{おやじ}教授をみて、その口うるささに閉口しながらも、「そうになっている」のだ。

1例を挙げてみよう。私は出張するときや休暇を取るとき、必ず日程や移動経路、用務先・滞在先、緊急連絡方法をまとめたものを医局のメーリングリストに流すことにしている。ゴールデンウィークや年末年始の長期休暇の時も同様である。

最近、若い医局員たちは出張するときや休暇を取るときに「○月×日 休暇をいただきます。代理は○△先生です」とか「△月◇日 ○×学会にて発表のため不在です」というように医局のメーリングリストに流すようになった。あー私は、うれしい、なんという幸せ者であろうか。そうなのだ、私を真似ているのである。

「そんなことないっす、^{おやじ}教授がうるさいからですよ」、それでもいいのだ。私は、大切なコドモたちが、世間で恥をかかず、獨協医科大学精神科の看板や評判を落っこさなければうれしいのである。

しつこいかもしれないが、2例目をあげようか。うちの医局員は普段からラフな格好をしたものが多い。私がネクタイ嫌いである（写真2、3参照）ことと、無関係とは言わせない。（ネクタイをしている人が嫌いということではない、ことはいうまでもないが。）医局では尾関准教授を除いて、ネクタイをしているのをあまり見たことがないではないか。そうなのだ、これも私の真似をしているのである。

つまり、医局員は良くも悪くも教授の真似をするのである。Behavioral phenocopy（行動上の表現型模写、俗には「オヤノセナカヲミテソダツ」）というべきもので、教授が書類をきちんと提出したり、期日を守ることを日ごろからやっていれば、医局員も書類をきちんと提出したり、期日を守るようになる。教授が金や酒にだらしなれば、医局員もだらしなくなるだろう。つま

り、教育はbehavioral phenocopyを如何に良い方向に持って行くかということに他ならないわけである。教育することは、教える側にも教えられる側にも意味がある。

また、私の真似をしている人達はさらに若い世代の人達のtemplate（鋳型）になっていくことを考えるとまさにbehavioral phenocopy はpolymerase chain reactionのようである。

私の責任は重大なのだと感じている今日この頃である。



写真1 本人はあまりこの格好は乗り気ではなかった。

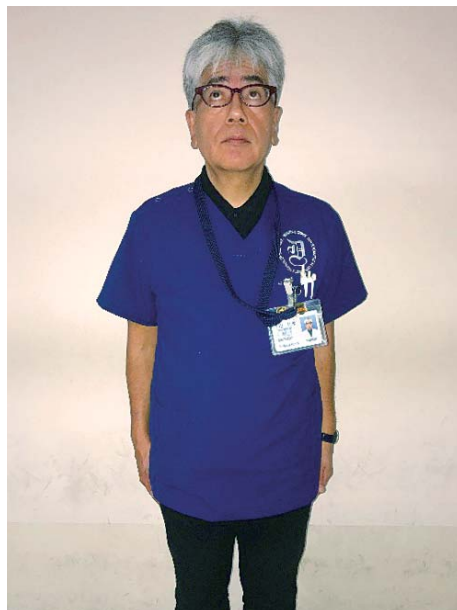


写真2、3 結構気に入っている。

私の忘れ難きこと

医療法人栄仁会 大平下病院
藤 沼 仁 至

こういうテーマでの寄稿ということですが、もうこの歳では忘却してしまうことの方が多く、そちらの方が心配になります。

今回は、獨協医科大学精神神経医学講座初代教授 宮坂 松衛先生が私に仰った中で、とりわけ記憶に残っていることを書いてみます。

内容は、身だしなみというか、服装に関することです。このことがあるまで、私は服装については無頓着で、ティーシャツ、ラグ・ジャ（昔はラグビーのユニフォームをこう言っていました。ラグビー・ジャージということでしょうか）とジーパンでいることが多く、ジャケットやスーツは冠婚葬祭などの余程のイベントで無いと着る機会はありませんでした。

1980年に医局に入局した私は、翌1981年夏、国際学会（確かWPAだったと思いますが）に宮坂先生、森先生のお供としてウィーンに行くこととなりました。私にとって初めての海外旅行ということを知った宮坂先生は、ほぼ1カ月近く毎日のように教授室にお呼び下さって、あれこれとご指導いただきました。宮坂先生のご指示でメモを取って、それを森先生にもお渡しいたしました。内容は微に入り細に入りで、果ては小学校の修学旅行よろしく、下着何枚、旅行用洗剤、物干し用の紐など記載することになりました。

その中で、私が「飛行機の中では、ティーシャツの方が楽では？」と申し上げたところ、宮坂先生は即座に「そういう者と、同伴では旅行に行かない」と仰いました。実際はより激しいお言葉でしたが、現在では活字化することも憚られるのでご容赦下さい。今思えば「海外に行くからには、容姿においても日本人としての気概を持って」と仰りたかったのかも知れません。その夏のヨーロッパは猛烈な暑さで、学会後に立ち寄ったイタリアでも辟易しました。ジャケットでも大変でした。ただし、ウィーンでは王宮が会場であった教授方が参加する製薬会社主催の晚餐会に同席させていただいた時には、スーツとネクタイが必要なことを実感いたしました。

このことがあってから、私は例え冠婚葬祭で無くとも、少しでも重要であったり、相手に敬意を表したい時は、必ずネクタイを着用するようにしています。

夏季にクール・ビズが叫ばれてしばらく経ちますが、私は夏でもネクタイ着用を気に掛けています。研究会や栃木県精神衛生協会などの集まりでも、なるべくネクタイ着けたいと思います。私がネクタイを着けていたら、私がその場所に敬意を払っていると思っていただけると嬉しく思います。ただし、あまり美的センスは無いので、ファッションについてのご評価はご容赦ください。

この話には後日談があります。私が大学にいた時には、宮坂先生のご指導を心にとめて、大学での診察には必ず白衣のVゾーンはネクタイを締めていました。通勤にはティーシャツやポロシャツだったとしても、医局で着替えていました。入局して4～5年だった頃、ティーシャツに着替えて帰り支度を終えてから、教授室に呼ばれて、いくつかの相談がありました。最後に宮坂教

授がぽつりと「お前はいつもティーシャツだな。たまにはネクタイを締めないのか？」と仰いました。「私は、大学ではいつもネクタイを締めています。今日も回診ではネクタイだったでしょう。」と反論しましたが、「いや、お前のネクタイは見たことが無い。」とけんもほろろでした。いくら服装に気を掛けていても、人は殆ど気にしていないということですね。

私の忘れえぬこと

医療法人朝日会 朝日病院

朝 日 晴 彦

私にとって「私の忘れえぬこと」というテーマとなるとやはりどうしても「野球」に関する事になってしまいます。

野球は子供の頃から大好きで小学生の頃は遊びと言えば友達や弟達とキャッチボールばかりしていたように思います。小学校の校庭でも昼休みの時間に野球をしたいと言い出して担任の先生を困らせたりしました。

中学校に入ると早速野球部に入部しました。監督の先生は金田先生といい野球経験が豊富な先生でした。野球部員は皆「金やん」と呼んでいました。400勝投手の金田正一の愛称をそのままいただいたものです。先生は体育の先生でしたが本来は数学の先生になる予定でした。ところが大学の時に担当教授と喧嘩して資格を取り損ねたそうです。そんなエピソードのある先生ですから野球の指導もそれは厳しいものでした。座右の銘は「熱球冷臓」だそうですが「熱球熱臓」の人であったと思います。

野球部の練習は放課後から日が暮れるまででした。ほとんどの時間はバッティングの練習でしたが、練習のハイライトは何ととっても最後の約30分間のシートノックでした。私のポジションはショートでしたが、このポジションはとにかくノック中の運動量が半端じゃないんです。守備範囲がサードとは比較にならないほど広いのです。さらにあらゆる場面に関係するのです。ダブルプレー、外野からの返球の中継など、とにかくボールに触れる機会が多いのです。そうすると当然ミスをする機会も増えるわけです。そこで必ず金田先生の怒鳴り声が飛んでくるわけです。ショートゴロをエラーすると、きちんとプレーできるまで連続してノックのボールが飛んできました。1回エラーすると先生の怒鳴り声とともにさらに難しいボールが飛んでくる、それをまたエラーするとさらに大きな怒鳴り声も飛んできてさらに難しいボールが……。そして最後は先生も熱くなってどうやっても取れないようなボールが飛んでくるといった具合です。さらに「こっちに来い」と言われて先生の所に行くと「このばかやろ」と必ず拳骨が飛んできました。とにかく練習で怒られない日はなかったということです。息は上がるし、足は動かなくなってくるし、めっちゃうちゃに怒られるしで、ノックが終わる頃には身も心もボロボロの状態の毎日でした。そして練習が終わると先生は必ず部員を集めてこう言います。「お前らは絶対にプロにはなれないんだから勉強が一番大事だ、帰ったら勉強しろ」。そんなことを言われてもヘロヘロの状態ですから家に帰ったら飯食って風呂に入って後は寝るだけです。当然学校の成績は推して知るべしです。

これだけの練習をしたので、また先生はいいピッチャーを作る名人だったので、チームはさすがに強く、県大会では準決勝まで勝ち進みました。しかし当時は県大会の優勝よりも難しいと言われた、下都賀郡の大会で夏の主要な大会を2つとも優勝していたので、県営本球場で先生を胴上げできなかったのはとても残念でした。準決勝で負けた時はその敗因を自分が作ったこともあって涙が出ました。

その後高校では、中学校であまりに野球をやりすぎたこともあって野球部には入らずプラプラ

した生活を送っていました。今ではそれをととても後悔しています。その代わり大学では、6年間硬式野球部で野球がすべてという学生生活を送りました。

金田先生とはその後もある理由で時々お会いすることが続いています。今でも先生を前にするとカチンカチンに緊張してしまい中学生の私に戻っています。中学校の部活では、先生から厳しいご指導を受け続けたわけですが、小学生まではぬるま湯の中で甘やかされてきたわけで、中学生の時に先生にこうして鍛えられて少しは強くなれて、その後は多少の困難があっても対応できるようになれたと思っています。厳しくご指導していただいた金田先生に感謝しています。

私のunforgettable

医療法人清水桜が丘病院

清水 輝彦

「私のunforgettable」とのお題で原稿依頼をいただいた。“忘れられないこと”だが、受け持った患者さんのことはもちろんだが、学会発表やその道中のことなど、今でもよく覚えていることもある。ただし“その後への影響”ということになるとなかなか奥が深くなってしまふ。

私の人生の中で大きなウエイトを占めているものの一つが音楽である。6歳でヴァイオリンを習い始め、大学卒業後はヴィオラも弾き始め今日に至っているが、1976年4月のとある出来事が、その後の音楽人生に大きな影響を与えている、というお話を書かせていただこうと思う。

ヘンリク・シェリング（1918～1988）というヴァイオリニストを御存じだろうか？ポーランドのワルシャワ出身、数か国語を操り第二次世界大戦中はポーランド亡命政府のために通訳をつとめ難民移住計画に関与、数多くの人々をメキシコなどへ脱出させ、そのことが縁でメキシコに帰化したという経歴の人である。レッスンを受けたこともなく一度しか会ったことがない彼を“先生”と呼ぶのはいかがかと思うが、私のなかでは“シェリング先生”なのである。先生の3度目の来日公演の際に、たまたま懇意にしていた東京のヴァイオリンの先生の音楽院を訪問されることとなり、その際の歓迎演奏の合奏にお誘いいただくという幸運に恵まれた。先生のバッハの無伴奏ソナタとパルティータ全曲のレコードに夢中になり楽譜を求めて密かに（弾けそうな部分を）練習していた当時16歳だった私には夢のような話であった。当日の曲目はバッハの2つのヴァイオリンのための協奏曲BWV. 1043より第一楽章、私達生徒は全員第2ヴァイオリンパートを演奏、先生は一人で第1パートを演奏されたがその響きとスケールの大きさは今でも忘れない。演奏終了後は一人ずつ握手していただき写真も撮っていただくという破格の出来事は、単に夢のような出来事にとどまらず、私に大きな影響を与え今日に至っている。

時は経て数年前にヴァイオリニストの河畠成道氏が釧路で地元の音楽愛好家と共演するというまさにサプライズな企画が持ち上がった際に、かつて私が指導を受けたヴァイオリン教室が共演の機会を得た。元生徒として今も賛助させていただいているが、もちろんバッハのあの曲を推した。河畠氏が第1パートを、小さな子を含めた教室の生徒たちが第2パートを、である。夢中で演奏し、興奮冷めやらぬ生徒たちの心に大きなものを残したと確信している私である。

私のunforgettable

医療法人秀明会 大澤台病院

小 杉 真 一

四十年以上も前の遠い昔、夏の真夜中、山の峠から煌々と輝く月を見ました。空気が澄んでいたせいもありましょう、月はちょっと手を伸ばせば簡単に掴めるくらいに私たちの傍でクッキリと明るく輝いておりました。父と私、父の友人とその父、四人で眺めたことをはっきりと覚えています。

一昨年十一月八日、その父が逝きました。町医者として生きた生涯でした。私が生まれた町の最初の開業医の後継者として養子に入り、以来働き詰めの毎日だったと聞いています。往診のバイクの後ろに乗せてもらった記憶がおぼろげに残っています。私が小学生の頃、眼科疾患を患い、以降は無理の出来ない体を気遣っての仕事振りとなりました。それからの父との関係は穏やかなものとは行かず、辛い思い出も少なからずあります。けれども、釣りのお供だけは、なぜか私の役目でありました。

南会津の只見川の支流に行くには奥日光の男鹿高原を越えねばなりません。今でこそトンネルを使って短時間で通過できますが、当時は峠道を車で越えていくしかありませんでした。頂上付近でしばし車を止め、母の用意してくれた握り飯を片手に、皆であの月を眺めたのでした。

月日は流れ、父が病の床に伏してから、この話をする機会がありました。父もまたあの月のことを覚えておりました。翌日の釣果はもはや定かではありませんでしたが、あの夜月の記憶だけははっきりと心に留めていてくれました。職人氣質の腕の確かな内科医であった我が父は、気難しくも誠実な人でありました。シャイで派手なことは苦手だけれど、繊細で心の清い男でもありました。波瀾のあった父-子関係ではありましたが、あのクッキリとした夜月が互いの確かな記憶であったことは嬉しく思っています。あまり表に出ることのなかった父の人となりと思い出をどこかに書いて置きたく、ここに記します。忘れる事の出来ぬ月の思い出とともに。

私のunforgettable

医療法人主愛会 日立梅ヶ丘病院

岡 田 正 樹

お題頂き一番に思い出したのがNat King Cole。とっても思い出のある曲なので、お題の趣旨に合っていない事は解っていても、どうしても思い出してしまう。

それはさておき、忘れる事ができない思い出といえば東日本大震災。これはどうしても消す事ができない。今、思い出しても心が動かなくなる。「思考の制止」この症状を身をもって経験した。辛い事はたくさんあった、だけれどもその中でも感動した出来事があった。それを紹介したい。

大きく揺れ始めたのは自分が実家の病院から帰宅し一息ついた時だった。自宅に居たのが幸いして、壬生に住まう家族の安否は確認できた。揺れが収まってどの位経ってからテレビをつけたのか、千葉のコンビナート火災の報道、続いて東北の津波の映像が流れていた。我に返って実家と病院が心配になり連絡を入れるが、全く繋がらない。日立市は完全に停電・断水となり、携帯の中継局も電源が落ち、外部からの連絡方法は全くなかった。壬生では停電がなかった為情報は手に入った。道路は通行止めと渋滞で大変なことになっている。単車で普段の倍の時間を経て病院に到着すると、電源は全て落ち、水道も止まり、すでに病院としての機能は全停止。その上、四つあった病棟の内、精神科の閉鎖病棟と開放病棟の二つが被災して使い物にならなくなっていた。「患者は？」何とスタッフの機転で、まだ使える認知症治療病棟に移動されていた。そこには大きなホールがありそこに他病棟から畳を持ち込み、何とか人数分の寝床は確保できていた。昼間でも薄暗いそのホールでの光景である。認知症の患者さんを閉鎖病棟の患者さん達が介抱する姿があった。その中にはあれほど治療に難渋していた統合失調症患者の姿もある。何ということだろう、想像だにできなかった光景だった。感激を通り越してただただ感謝の気持ちが溢れた。その日はその病棟に泊まった。この先どうなっていくか分からない不安の中、寝袋の中で今自分ができることを一つでも多く行動しようと覚悟が決まった。

今もその気持ちで仕事を続けている。





私のunforgettable

獨協医科大学精神神経医学講座 主任教授

下 田 和 孝

この手のタイトルを依頼されれば、シモダとしてはrockネタを書くと大半の方が予想するであろうし、その期待を裏切ってはならぬ。

1972年10月4日水曜日の夕刻、岡山市立岡輝中学校3年に在学していたシモダ少年は大阪フェスティバルホールにいた。2回目のJapan tourを行っていたLed Zeppelinのライブをみるため、開通したばかりの山陽新幹線に乗って大阪に出てきたのである。

当時のシモダの家庭教師が1回目の来日の際の広島公演を見た経験をシモダに熱心に語っていたということもあり、中学3年であったシモダ少年の頭はThe Ventures → Chicago → Emerson, Lake & Palmer → Led Zeppelinと順当に進化の過程にあったのだ。

当日のライブは忘れもしない“Rock'n Roll”からはじまり、gimmickの一切無いライブであり、今思い出しても超一級だったと思う。なによりJimmy PageがLes Paulを低くぶら下げて弾きまくる姿（写真参照）にknockoutされた。

Led Zeppelinは当時から演奏時間が長いことで有名なバンドであったが、このときも何度も何度もアンコールがあった。Unforgettableなのはここからである。客電（客席側の照明）が点灯しても拍手は鳴りやまず、staffがアンプを片付け始めても、audienceは帰らず、「本日のLed Zeppelinのコンサートのプログラムはすべて終了しました」というアナウンスが何度流れても誰も帰らず……。本当に当時の我が国のaudienceはnaïveだったのだ。

しか～し、その時、Jimmy Pageがステージに現れ、Marshallのguitar ampなどを片付け始めたstaffを制し、シールドを自らMarshallにぶっこみ、客電がついたまま“Immigrant song”!!

あああ～、あ～あ！！ 寒い国からやってきた、白夜の大地に温泉が湧き出る！！（注 直訳ロックの「王様」による訳詩 原詩は“We come from the land of ice and snow. From the midnight sun where the hot spring blows”） 嗚呼～、今、思い出しても背筋がぞくぞくする！！！！

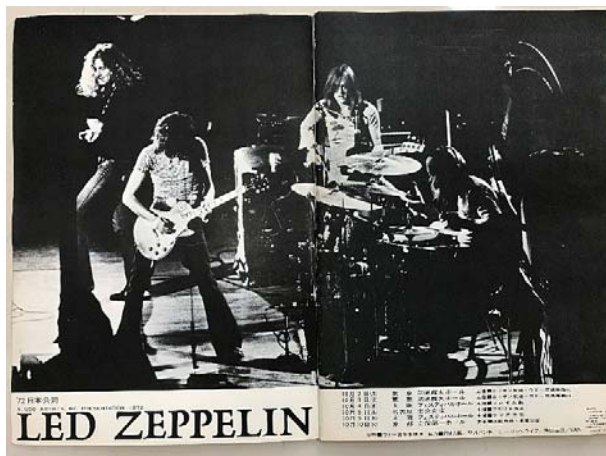
今のbig nameのコンサートでは望むべくもないunforgettableなロックシーンであるし、人をvibrateするとか、期待にこたえるというのはこういうことかと学んだ。

ついでに大阪駅で帰りの電車（新大阪発 宇野行 急行 鷺羽（わしゅう））を待っていたシモダ少年（当時岡山市立岡輝中学校3年、丸刈りであった）は曾根崎署のおまわりさんに補導されたのであった。

当時は「ロック＝不良」の公式が成立していたのである。



当日のチケット。特別席で2900円というのが時代を感じさせる。



当日販売されていたプログラム



まあ一度やってみてください、こんな低くぶら下げたら、弾けないから。

私のunforgettable

獨協医科大学精神神経医学講座

川 俣 安 史

2015年の年始、川俣は初期研修医2年目であった。病棟業務のない診療科のローテーションを組み合わせ、長期休暇を取得し、欧州旅行をしていた。ドイツは地ビールやウイナーが美味しくて、当時は治安もまあまあ良かったので、寒さを除けば休暇を過ごすのに格好の観光地であった。BundesligaはFC Bayern Münchenのような超人気チームの観戦も良いが、Eintracht Frankfurtにフル出場する長谷部を見るのも面白い。日本人がドイツのチームを指揮しているのを見ると、テレビ中継で見るとはまた違って見えて、日本人としてなんとも感慨深い思いを抱いた。

さて、高校からの友人S君との欧州旅行を楽しみ、帰りの便はDüsseldorf発、成田着の全日空便だった。チェックインをしてboarding timeを待っていると放送で“Mr. Kawamata, please come to the boarding gate soon”と呼び出しを受けた。もしやパスポートでも落としたかと慌てて行くと“You are lucky”と言われ、航空券がエコノミーからビジネスクラスに書き換えられた。そう、involuntary upgrade、通称インボラである。ボーイング787のフルフラットシートによる快適な空の旅で終わる、忘れられない旅行となった。

最近ではユナイテッド航空のover bookingによるダオ医師引きずり降ろしは衝撃的な忘れられないニュースであった。航空会社によるover bookingが批判されたが、インボラもエコノミークラスのover bookingによるということ忘れてはならないと思う。

このような独身の私も、この同門会誌が発行される頃には現在の交際相手と結婚をしているのだろう。交際の仲介人となったS君は赴任先の米国から、披露宴に参加してくれるようだ。結婚式はお互いの意見が合い、ANAインターコンチネンタルホテルで挙式することにした。機内で飲める「ANAオリジナルビーフコンソメスープ」や「香るかぼす」はホテルとしては提供していないと言われた（当たり前なのかもしれない）。

まだ式の打ち合わせも不十分な段階であり、想像もつかないが、一つ言えるのはその日が「私のunforgettable day」になるということである。



恥ずかしながら人生初のビジネスクラスを無料で

平成28年度 入院統計

獨協医科大学精神神経医学講座 病棟医長

岡 安 寛 明

関連各病院の先生方には、平素より大変お世話になり誠にありがとうございます。

平成28年の入院患者統計について報告させていただきます。平成28年1月～12月までの入院患者数は168名（男性60名、女性108名、平均年齢 55.8 ± 16.5 歳）でした。内訳としては、従来の気分障害圏（抑うつ障害群と双極性障害及び関連障害群）では39%、統合失調症圏が22%と前年度と概ね同様の傾向でありました。

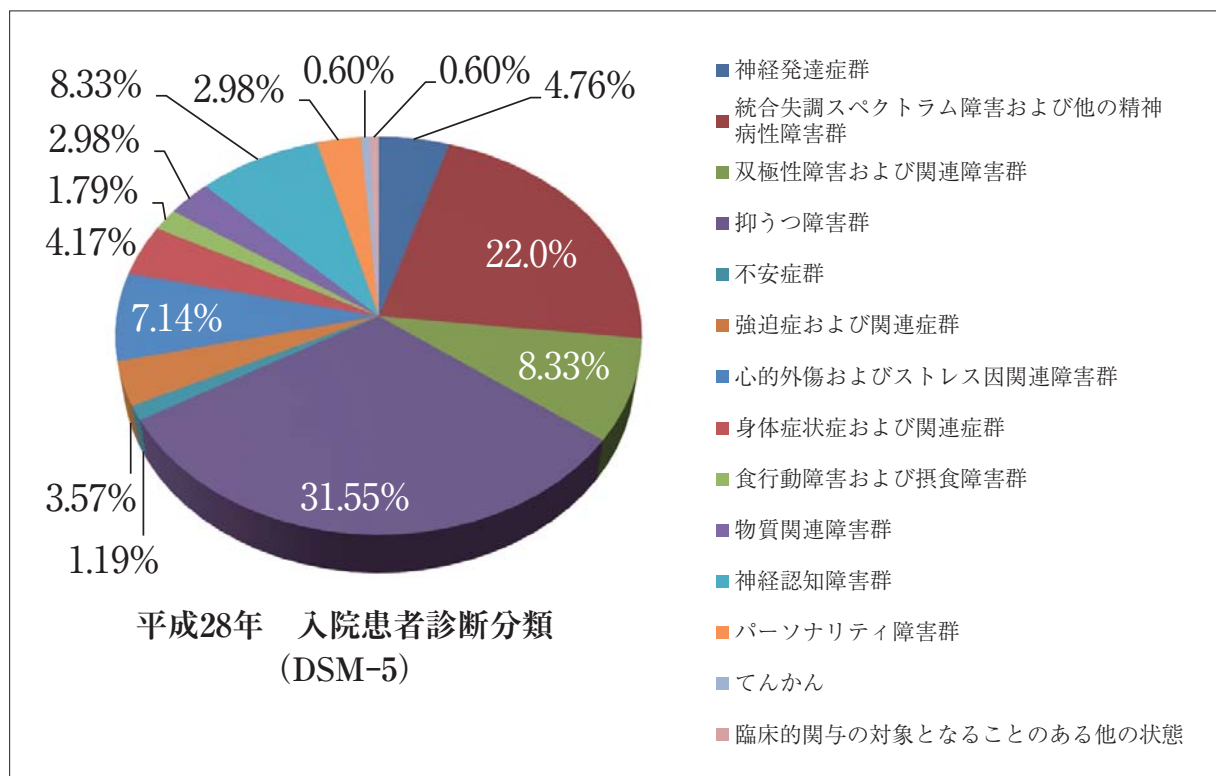
当院は総合病院であることから、身体疾患を合併されている症例が入院患者の約74.4%を占め、必要に応じて当該各診療科への診察を依頼し、身体・精神両面にわたった総合的な治療を行っております。また、自殺企図症例などの救急患者に対しても、救命救急センターと連携して診療にあたり、必要があれば、当科での入院を継続して治療にあたっております。さらに、平成28年4月より精神科リエゾンチームを発足させ、一般身体科病棟へ入院中の患者の精神症状に対して、チーム回診をして、主治医と意見交換し、連携して診療にあたるなど、リエゾン・コンサルテーションにも積極的に取り組んでいます。

また、当院では、麻酔科医の協力の下、修正型電気けいれん療法（m-ECT）を実施しており、平成28年は256件施行しました。

このように身体合併症があり治療に際して身体科との連携が必要な症例や、m-ECTが適応となる症例は大学病院精神科が対応していくべきであり、今後も積極的に対応していきたいと考えておりますので、当院での治療が望ましいとご判断いただきました症例は、是非ご紹介いただけますようお願い申し上げます。

一方で、当院の精神科病棟は開放病棟（42床うち保護室1床）であり、著しい興奮状態にある急性期の症例を常時受け入れられる環境ではありません。また、当院での急性期治療が終了した後に継続治療が必要と判断される症例につきまして、当院から転院依頼をさせていただく場合があります、その際には御協力をいただけると幸いです。

大学病院精神科の特色を生かしつつ、地域の精神科病院の要望に応えることができるように医局員一同、不断の努力をしていく所存ですので、これまで同様の御支援の程、何卒よろしくお願いいたします。



平成28年度 外来統計

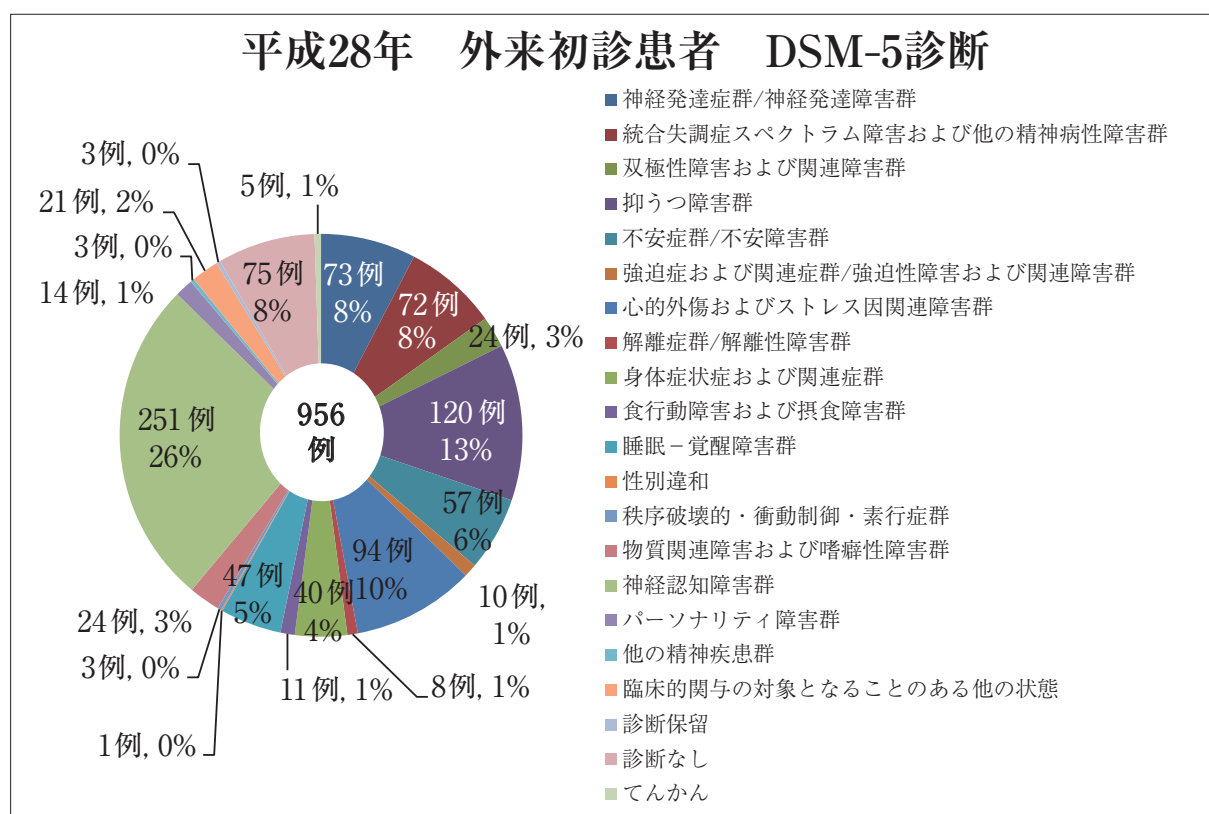
獨協医科大学精神神経医学講座 外来医長
藤 平 明 広

はじめに、関連各病院の先生方には、平素より大変お世話になり誠にありがとうございます。

2016年1月～12月までの新患患者数956名、総再来患者数延べ32771名、一ヶ月平均2730.9名となり、やや増の数値で推移しております。入局希望者が徐々に増えつつありますが、雇用上増え続ける訳ではなく、依然苦しい体制が続いておりますが、入局員の確保と併行して来年以降も医局員一同、日々努力して参りますのでお含みおきください。

初診患者の内訳は、昨年と見比べてみると大体比率は同じようです。認知症疾患センターを開設していることもあり、例年通り神経認知障害群が全体の1/4と多く占め、以降は気分障害、心的外傷およびストレス因関連障害群（ほとんど適応障害）、統合失調症圏、不安症群等が続いております。神経発達症群が徐々に増えつつあります。「診断なし」は臓器移植等のドナー、レシピエントの精神医学的評価も含んでいます。また、器質因・症状性精神疾患、身体疾患合併例が多く、総合病院である当院の特色と考えております。

平成20年から完全予約制を導入しており、予約が立て込んだ場合は暫しお待ちいただくこともあり、地域の先生方をはじめ諸機関の皆様には大変ご迷惑をおかけ致しております。大学病院精神科の特色を鑑みて、当科での精査加療が望ましいとご判断いただきました患者さまにおきましては、ご紹介頂きますよう何卒よろしくお願い申し上げます、可能な範囲で対応致します。



人事往来

■2016年度

篠崎将贵	レジデントから学内助教に昇任（2016年4月1日）
関口智美	獨協医科大学保健センターに異動（2016年4月1日）
竹内祥貴	レジデントとして採用（2016年4月1日）
有吉顕子	栃木県立岡本台病院から滝澤病院に転任（2016年7月1日）
白木亮祐	レジデントとして採用（2016年7月1日）
近藤年隆	栃木県立岡本台病院より復帰（2016年10月1日）
篠崎将贵	栃木県立岡本台病院に転任（2016年10月1日）
大橋留生	秘書として採用（2016年12月1日）
堀田葉月	産後休暇、育児休暇（2016年12月1日）
大曾根 彰	講師から学内准教授に昇任（2017年1月1日）
藤井久彌子	学内講師から学内准教授に昇任（2017年1月1日）
渡邊 崇	学内講師から講師に昇任（2017年1月1日）
石川高明	仁和会 埼玉江南病院に転任（2017年1月1日）
岡安寛明	助教から学内講師に昇任（2017年1月1日）

2017年1月現在の講座スタッフ

主 任 教 授	下田和孝
准 教 授	尾関祐二（医局長）
学内准教授	大曾根 彰、藤井久彌子
講 師	渡邊 崇
学 内 講 師	岡安寛明（病棟医長）
学 内 助 教	藤平明広（外来医長）、篠崎隆央、近藤年隆、北原亜加利
レジデント	川俣安史、竹内祥貴、白木亮祐
大学院生（社会人大学院生）	高野有美子、川俣安史、篠崎将贵、儀藤政夫、尾形広行
臨床心理士	小西 徹、新井怜子、袴田リナ
医 局 秘 書	堀田葉月、大橋留生

学内講師(派遣)	小杉真一（大澤台病院）、佐伯吉規（がん研有明病院）
助教（派遣）	鈴木武士（大平下病院）、上田幹人（滋賀里病院）、齋藤 聡（さいとうクリニック）
学内助教(派遣)	室井宏文（室井病院）、鮎瀬 武（菊池病院）、萩野谷真人（日立梅ヶ丘病院）、 高野有美子（室井病院）、林 有希（氏家病院）、有吉顕子（滝澤病院）、 篠崎将贵（栃木県立岡本台病院）、長谷川千絵（鹿沼病院）
研 究 生	佐藤勇人（佐藤病院）、森 和也（佐藤病院）、井上義政
名 誉 教 授	大森健一（滝澤病院）
特 任 教 授	高橋三郎（埼玉江南病院）

非常勤講師 中野隆史（獨協大学）、黒田仁一（栃木県立岡本台病院）、
朝日公彦（朝日病院）、朝日晴彦（朝日病院）、
駒橋 徹（鹿沼病院）、藤沼仁至（大平下病院）、
渡邊昭彦（川村学園女子大学）、室井秀太（室井病院）、
岡田正樹（日立梅ヶ丘病院）、石黒 慎（こころの花クリニック）

新入局員挨拶

竹 内 祥 貴 (2016年4月入局 栃木県小山市出身)

初めましてではない方も多いかと存じますが初めまして、新入局員の竹内祥貴と申します。

私は2014年初期研修医となった4月から2ヶ月間精神神経科で研修させていただきました。初期研修医の2年目にはかなりの期間を精神神経科で研修させていただき、朝日病院にもお邪魔させていただきました。ですので実際には3年以上前から関わってくださった先生方もおられますので、私の「新入局員挨拶」を読まれて「新入局員だったっけ?」と思われる方もおられると思います。

ですが、一応自己紹介をさせてもらおうと、性格は保守的なことが多く、変化をあまり好みません。…嘘です。すいません。目新しいものに興味を抱くことが多く、踏襲的なものに変化を望むことが多い人間ですので、日々初めて受け持つ疾患と下田教授に反骨精神と挑戦的姿勢で臨もうと考えております。(教授には完全にとぼっちりですが)

そんなレジスタンスを目指して日々診療を行っていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

新入局員挨拶

白 木 亮 祐（2016年7月入局 群馬県伊勢崎市出身）

平成28年7月から当院精神神経科へ入局しました白木亮祐です。諸事情により、研修医ローテーションが終了するのが若干遅れてしまい、この時期からの入局となりました。2年間の研修を終え、現在はこれまで以上に責任を感じながら仕事に取り組んでいます。最近は日々医局の先生方に支えられながら、少しずつ仕事に慣れてきています。

今思えば、私は大学進学時、自分が何故、医師になろうとしたのかが、はっきりしないまま医学部に進学してしまいました。進学後も、部活などの忙しさに感けて、結局、その理由が分からないまま、学生時代を終えてしまいました。

臨床研修医となった時点でも医師になった実感は湧かず、ましてや精神科医になることなど考えていませんでした。しかし、臨床研修にて、いろいろな科を研修している間に医師としての自覚が出て、徐々に精神的分野への興味が高まってきました。

当院の精神神経科には計4ヶ月研修させていただき、石川高明先生をはじめとした諸先生方にご指導いただきました。その間にうつ病や統合失調症などの精神疾患を経験させていただき、一層、精神的分野への興味が高まったように思います。

獨協医科大学病院精神神経科に入局しまして、早1年が経ちました。私は今まで多くの諸先生方、看護師の方々の寛大なるご指導によりましてここまでやってこられたと思っています。至らぬ点は沢山ありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、これからもどうぞご指導のほどよろしくお願い致します。

研究紹介

獨協医科大学精神神経医学講座

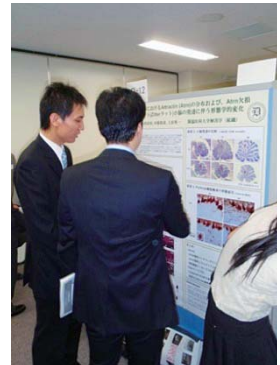
川 俣 安 史

私の現在行っている研究内容についてご紹介させていただきます。私は現在精神神経医学講座の社会人大学院生の第3学年に在学し、外部研究機関として獨協医科大学解剖学（組織）教室で上田秀一教授のご指導の元に基礎研究を行っています。私が上田先生のもとで実験をするようになったのは、大学3年生の基礎配属がきっかけでした。当時は今とは別テーマで研究を行っていて、変性疾患モデル動物を用いた小脳変性の研究を行っていました。大学5年生時に学生の身分ながら、研究結果を国内学会で発表させていただくことができました。

現在はshaken-baby-syndromeモデル動物の行動・機能変化に関する研究を行っています。モデル動物を作製し、それらの組織細胞化学的解析、行動解析、ストレスホルモン値の測定などを行っています。今年度4月から北濱（旧姓 田中）宏美先生が大学院生として、新たに研究メンバーに加わり活動中です。

なぜ精神科臨床医のトレーニングをしながら基礎研究をするのか、不思議に思われる方もいるかと思います。実際、私は下田和孝教授就任後、初の基礎研究を行っている大学院生のようにです。

臨床の場で感じる精神科の難しさの一つは「心は見えない」ことです。見えないだけではなく、ホルモン値のように機器で測定することもできません。しかし、基礎研究では組織細胞化学的解析で神経細胞レベルでの変化が「見える」ことで、捉えどころのない精神疾患というものに可視的アプローチをすることができます。基礎研究と臨床は精神医学において対極的なものではなく、相補的なものと感じています。



（左：解剖学（組織）教室でのミーティング風景、中央：凍結薄切切片を作製する田中先生、右：医学部5年生時に日本組織細胞化学会で質疑を受ける川俣）

こころの花クリニックを開院して

こころの花クリニック

石 黒 慎

獨協医科大学精神神経医学講座の皆様、また同門会の皆様、大変ご無沙汰しております。私は平成26年4月に慣れ親しんだ栃木県から故郷である山形県鶴岡市に移り、山形県立こころの医療センターに2年ほど勤務した後、同市にこころの花クリニック（心療内科・皮膚科）を開業させていただいた石黒慎です。

私は獨協医科大学を卒業後、同大学病院を希望し2年間の研修を行いました（スーパーローテーションが導入された第1期の研修医でした）。その過程で、当初全く入局する予定のなかった精神科に配属された時に運命が決まりました。精神科医療と治療後に社会復帰していく患者さんの姿を見て、「一生を共にできる仕事は精神科しかない」と感銘を受けて入局の扉を叩きました。その後も、皆様に大変可愛がって育てていただき、下田和孝教授の下で10年間修行させていただきました。後に大学病院から離れてみると大学での教育は何と充実していたのかと振り返っています。たくさんの意味で非常に幸運だったと思います。「サマリーが書けない、診断が間違っている」と何度も繰り返し指導を受け、愚痴りながら涙ながらも勉強を続けたことは本当に大切だったと思います。特に研究に関しては、何度も挫折しましたが経験して良かったと思います。研究における物事の考え方や論文の調査方法だけでなく、今でも診療の中で本当に困ったときは大きな助けになってくれています。もし悩んでいる方がいれば、必ず力にはなるので是非ともお勧めしたいと思います。

その後、故郷である鶴岡で仕事がしたいと考え、下田教授の口添えをいただき、山形大学医学部精神神経医学講座の大谷浩一教授のお世話になり、山形県立鶴岡病院（現・こころの医療センター）へ勤務いたしました。当初は土地柄や考え方が異なる地域での患者さん方とのコミュニケーションに困惑することもありましたが、同僚の先生たちに支えられ何とか馴染むことが出来たのではないかと考えています。勤務期間には病院の移転や修正型電気けいれん療法の導入を経験し、その過程で難渋したことから、いかに病院や先生方に守られながら医療に従事させていただいたのかと切に感じました。そのような中、以前からの目標の一つであった開業という夢に向かって、このたび第一歩を踏み出させていただきました。

さて、平成28年7月1日にこころの花クリニックの開業に至りました。開業の際に、たくさんのお祝いをいただき、この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。現在は皮膚科医である妻と事務さん2名の4人でクリニックを運営しています。たぶん仲良

くできているかなと思います。クリニックには特別な検査器具や心理検査は何もありませんが、患者さんには出来るだけ丁寧な面接を行えるように心を配っていこうと考えています。事務さんたちも自分できちんと考えて、診療しやすいように色々提案してくれるのでチームワークも少しずつ整ってき良かったと思います。日々の診療では、みんなで患者さんが来てくれるか心配したり、少しずつ患者さんが良くなる姿を見て喜んだりしています。また、雪の日などは「暇だな」とため息をついたり、急に忙しくなって右往左往したりと調整も難しく毎日が波乱に満ちています。患者さんとも喧嘩しては仲直りしながら、深刻な話の後でも最後は楽しく治療をしようと決めたりして、診療は出来るだけみんなが笑顔でいられる時間になるように心がけています。徐々に患者さんが増えてくれることが、なんだか少しだけ認められた気がして嬉しいと思っています。

現在は地域に根差した診療と獨協医科大学のテーマであった各個人に合わせたオーダーメイドの治療を目指しています。遠い山形の地にいますが、気持ちはやっぱり獨協医科大学の精神科に根差しているのではないと思う今日この頃です。

最後に、私の日常は夫婦での育児に日々追われています。週末は毎週のように子供たちと一緒にプールでひと泳ぎしています。子供たちが溺れないように見ていることは大変ではありますが楽しいと思えることが嬉しいです。また、そのような時間を持つことで自分自身の気持ちがリラックスできることも大切なと考える毎日です。

獨協医科大学の先生方、同門会の先生方におかれましては、今後とも御指導・御鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



～獨協医科大学・新潟大学対抗戦レポート2016～

獨協医科大学精神神経医学講座 ゴルフ部部长

石 川 高 明

毎年恒例の新潟大学精神科ゴルフ部との第9回対抗戦（幹事:新潟大学）が平成28年9月4日に新潟県の紫雲ゴルフ倶楽部にて開催されました。獨協医大からは下田教授、林先生、川俣先生、石川の計4名が参戦しました。新潟大学は染矢教授を中心とした選りすぐりのメンバー10名という万全の布陣であり、「獨協チーム」にとっては試合前から「へびに睨まれたカエル」でした。

これまでの対戦で獨協チームは一度も勝利しておらず、新潟大学の強さは新潟の風土や伝統に何らかの秘密が隠されているのではないかと常々考えておりました。対戦に備え、新潟大を丸裸にするため、私と川俣先生は前日に新潟に乗り込み調査することにしました。まずは、古町花街の芸妓さんの「芸」からヒントを得ることにしました。新潟古町芸妓は、京都の祇園や東京の新橋などと並び称され、その歴史は古く、約200年前の江戸時代まで遡ります。磨きぬかれた芸妓さんの芸は新潟を代表する伝統文化です。私と川俣先生が体験したお座敷遊びの「樽拳」には、♪トトンがトン♪トトンがトン、という独特のリズムがあり、もしかしたらゴルフのスイングに応用できるかもしれないと感じました。対抗戦に向け、一つ大きなきっかけをつかんだ気がしました。夜には新潟大学の皆様と合流し、古町で宴会が催されました。我々は新潟大の皆様の粋な計らいによりすっかり気分を良くした「獨協チーム」は翌日の対抗戦を待たずに満足感にひたってしまうのでした。

対抗戦の獨協チーム最高位は川俣先生の4位であり、今回も惨敗してしまいました。優勝は2年連続で新潟大学の宮本先生でした。今回のベスグロ（42-41）も染矢教授でしたが、これまでに参加されたすべての対抗戦でベスグロを獲得しております。染矢教授は芸妓さんの「芸」にも精通していると伺いました。おそらくはゴルフにもその「芸」が生かされているに違いありません。やはり、新潟大の強さの秘密は新潟の風土に根付いた「粋」と「芸」にありそうです。

今後の対抗戦に向け、下田教授と川俣先生は個人レッスンを始めました。第10回対抗戦ではこれまでとは違う報告を同門の皆様にご覧いただくことを願いつつ、私自身もチームの一員として勝利に貢献するため、芸妓さんに教わった「芸」をヒントにしてゴルフの腕を磨きたいと思います。

次回の対抗戦の結果やいかに。



芸妓さんの「芸」と「粋」を堪能した石川（左から2番目）と川俣先生（右から2番目）



新潟の夜は楽しい！と石川



新潟大学の先生方と集合写真

— 写真で見る講座・大学の動きおよび学会出張記 —



第14回こころの絵画・書道展
(栃木県総合文化センター、宇都宮、2016年2月2-3日)



2015年度医局旅行。毎回、大森健一先生（獨協医科大学名誉学長、名誉教授、医療法人 至誠会 滝澤病院理事長）は出席される。（2015年度医局旅行、ホテルエピナール那須、2016年3月12日）



うだうだとやっているうちに夜が更けていくのが獨協精神科のやり方。
川俣安史先生は何故二本指を立てているのか・・・たぶん「英文原著論文2編書きます」という意味だろうと思う。
(2015年度医局旅行、ホテルエピナール那須、2016年3月12日)



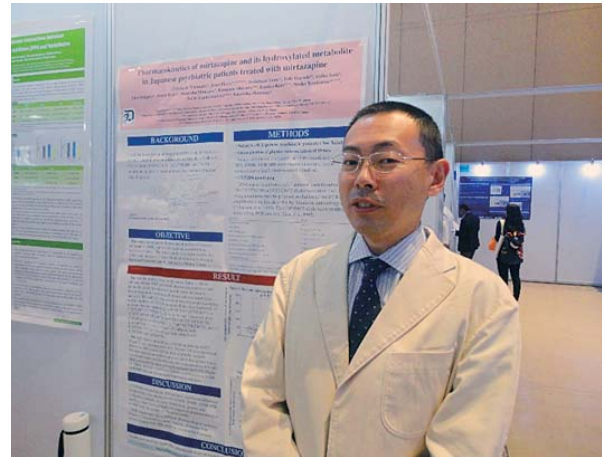
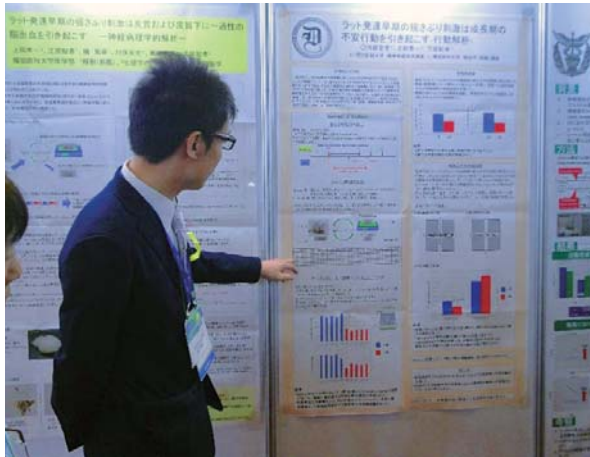
医局旅行後、恒例のゴルフ。川俣安史先生の豪快なドライバーショット！
(Sun Hills Golf and Resort、宇都宮、2016年3月13日)



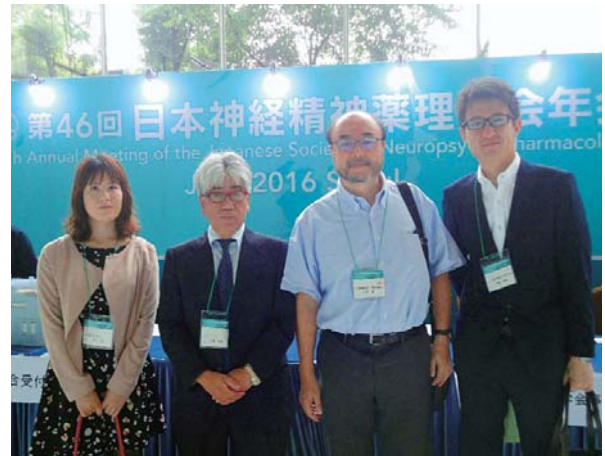
熊本地震にDisaster Psychiatric Assistance Teamとして参加。
左から白濱雅子看護師、藤平明広先生、伊谷野和弘さん
(熊本県精神保健福祉センター、熊本、2016年5月16-20日)



内田裕之先生（慶応義塾大学）による講演
(第6回Dokkyo Psychiatry Club、壬生、2017年6月15日)



川俣安史先生（左）、渡邊 崇先生（右）の発表
(30th congress of Collegium Internationale Neuropsychopharmacologicum, Seoul, Korea, July3-5, 2016)



江田 梢先生（当時、臨床研修センター初期研修医（現在、麻酔科学講座レジデント）、
川俣安史先生、下田和孝教授、上田秀一教授（解剖学（組織））
(30th congress of Collegium Internationale Neuropsychopharmacologicum, Seoul, Korea, July3-5, 2016)



医局・病棟・外来合同納涼会。医局旅行と同様、大森健一先生
(獨協医科大学名誉学長、名誉教授、医療法人 至誠会 滝澤病院理事長) は必ずご出席。
(宇都宮グランドホテル、宇都宮、2016年7月11日)



精神科の講座担当者は基本的に仲がいいのだ！！こんな光景が他の分野では絶対みられないだろう。
 左から上野修一教授（愛媛大学）、顔が隠れているが山口義文教授（山口大学）、水野雅文教授（東邦大学）、
 山脇成人教授（広島大学）、池田 学教授（大阪大学）、山田了士教授（岡山大学）、下田和孝教授、
 村井俊哉教授（京都大学）、堀口 淳教授（島根大学）による「長崎は今日も雨だった」の大合唱！！
 （第34回精神医学講座担当者会議、島根・玉造温泉、2016年8月19-20日）



下田和孝教授による会長講演
 （第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日）



駒橋 徹先生
 （第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日）



Prof Leif Bertilsson (Karolinska Institutet, Sweden) による講演
(第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日)



Department of Clinical Pharmacology, Karolinska Institutetの同窓会！
(左から大谷浩一教授（山形大学）、Prof Leif Bertilsson(Karolinska insitutet)、下田和孝教授)
(第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日)



Prof Soma Ganesan(University of British Columbia, Canada)による講演
(第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日)



活発な討論で大いに盛り上がった。
(第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日)



懇親会を盛り上げてくれた「直訳ロックの王様」とKazzfest！
(第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日)



懇親会也大いに盛り上がった。学会は楽しくなければならない！
(第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日)



駒橋 徹先生（第23回多文化間精神医学会副会長、特定医療法人 清和会 鹿沼病院 理事長）
による閉会のあいさつ
（第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日）



Prof Leif Bertilssonご夫妻と大谷浩一教授ご一家で日光旅行を楽しんでいた。ご家族
（第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1-2日）



砂川啓介さん（故人）による講演会。この時すでに体調が悪かったが
「獨協医大の先生と約束したんだから絶対に行く」とおっしゃっていたと聞いた。ご冥福をお祈りいたします。
（獨協医科大学認知症疾患医療センター講演会、壬生、2016年10月29日）



下田和孝教授と渡邊 崇先生（左）、藤井久彌子先生（右）
（第26回日本臨床精神神経薬理学会、大分、2016年10月17-18日）



大分の年会で理事に選任された尾関祐二先生
（第26回日本臨床精神神経薬理学会、大分、2016年10月17-18日）



山本恭司師匠の真似をしてみた。
（米子鬼太郎空港、2016年11月30日）



篠崎将貴先生（左）、渡邊 崇先生（右）
（第37回日本臨床薬理学会学術総会、米子、2016年12月1-3日）



シンポジウムを終了して
左から下田和孝教授、鈴木雄太郎先生（新潟大学）、加藤正樹先生（関西医科大学）、
古郡規雄先生（弘前大学）、猿渡淳二先生（熊本大学）
（第37回日本臨床薬理学会学術総会、米子、2016年12月1-3日）



第37回日本臨床薬理学会会長招宴にて。足はきつかったが修了証授与。
（第37回日本臨床薬理学会学術総会、米子、2016年12月1-3日）



第6回日中薬理学・臨床薬理学ジョイントミーティング
(第37回日本臨床薬理学会学術総会、米子、2016年12月1-3日)



米子城址より
(第37回日本臨床薬理学会学術総会、米子、2016年12月1-3日)



2016年度獨協医科大学精神神経医学講座同門会総会
(宇都宮東武ホテルグランデ、2016年12月10日)



森 隆夫先生（医療法人 愛精会 あいせい紀年病院 理事長、日本精神科病院協会理事、日本専門医機構理事）による「今後の精神科専門医制度の動向」に関するご講演。
（2016年度獨協医科大学精神神経医学講座同門会、宇都宮東武ホテルグランデ、2016年12月10日）



藤沼仁至先生（医療法人 栄仁会 大平下病院 理事長）（左）による乾杯。当然ながらピコ太郎も参加（右）。
（2016年度獨協医科大学精神神経医学講座同門会・精神科合同忘年会、宇都宮東武ホテルグランデ、2016年12月10日）



毎年、同門会会員の先生方、医局員、獨協医科大学精神科スタッフ、栃木県精神衛生協会の先生方が集まって、一年間の労をねぎらう。
（2016年度獨協医科大学精神神経医学講座同門会・精神科合同忘年会、宇都宮東武ホテルグランデ、2016年12月10日）



藤平明広先生（右）、平成28年熊本地震の際のDisaster Psychiatric Assistance Teamの活動に対して
2016年度宮坂賞受賞。
(2016年度獨協医科大学精神神経医学講座同門会・精神科合同忘年会、
宇都宮東武ホテルグランデ、2016年12月10日)



黒田仁一同門会長（栃木県立岡本台病院・院長）による忘年会閉会のあいさつ。
(2016年度獨協医科大学精神神経医学講座同門会・精神科合同忘年会、
宇都宮東武ホテルグランデ、2016年12月10日)



2016年秋 集合写真

平成28年度 獨協医科大学精神神経医学教室同門会総会議事録

平成28年12月10日 於：宇都宮東武ホテルグランデ

当日20人の出席、53名からの委任状により総会開催となりました。下記のように議事が進行されました。

1、会長挨拶 黒田仁一会長

2、議 事

(1) 平成27-28年(H27.12.-H28.11.) 事業報告

1、同門会総会・記念講演会開催 平成27年12月12日 於：宇都宮東武ホテルグランデ
記念講演会 自治医科大学 精神医学教室
教授 須田 史朗 先生

2、平成27-28年 宮坂賞表彰 平成27年12月12日 於：宇都宮東武ホテルグランデ
受賞者 齋藤 聡 先生(獨協医科大学精神神経医学講座)

3、同門会誌 第8号 発行 平成28年12月

4、会員名簿発行 平成28年12月

5、平成28-29年 宮坂賞選考 平成28年10月
受賞者 藤平 明広 先生(獨協医科大学精神神経医学講座)
受賞理由：熊本地震におけるDPATへの参加

(2) 平成27-28年決算報告(詳細は略させていただきます。)

(3) 平成28-29年(H28.12.-H29.11.) 事業計画

1、同門会総会・記念講演会開催 平成28年12月10日 於：宇都宮東武ホテルグランデ
記念講演会 『今後の精神科専門医制度の動向について』
医療法人愛精会 あいせい紀年病院 理事長 森 隆夫先生

2、平成28-29年 宮坂賞表彰 平成28年12月10日 於：宇都宮東武ホテルグランデ
受賞者 藤平 明広 先生(獨協医科大学精神神経医学講座)

3、同門会誌 第9号 発行 平成29年10月予定

4、会員名簿発行 平成29年10月予定

5、平成29-30年 宮坂賞選考 平成29年10月予定

(4) 平成28-29年予算案(詳細は略させていただきます。)

(1)～(4)について、会計責任者、監事などからの説明があり承認されました。

(5) 平成28-29年(H28.12.-H29.11.) 役員改選があり下記の先生方に決まりました。

会 長 黒田仁一

世話人 下田和孝 斎藤 治 藤沼仁至 朝日晴彦 松村 茂 石川高明

監 事 駒橋 徹 佐藤勇人

以上にて、無事総会が終了しました。

朝日公彦

—— 2016年の講座業績 ——

獨協医科大学神経医学講座 主任教授

下 田 和 孝

■2015年の業績（追加分）

<分担執筆>

佐伯吉規

向精神薬の減量の仕方について教えてください

在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための 服薬管理 はじめの一步 コツとわざ（担当：吉澤明孝）、p128-148、じほう、東京、2015

■2016年の業績

<英文原著>

Hou L, Heilbronner U, Degenhardt F, Adli M, Akiyama K, Akula N, Arda R, Arias B, Backlund L, Banzato CE, Benabarre A, Bengesser S, Bhattacharjee AK, Biernacka JM, Birner A, Brichant-Petitjean C, Bui ET, Cervantes P, Chen GB, Chen HC, Chillotti C, Cichon S, Clark SR, Colom F, Cousins DA, Cruceanu C, Czerski PM, Dantas CR, Dayer A, Étain B, Falkai P, Forstner AJ, Frisén L, Fullerton JM, Gard S, Garnham JS, Goes FS, Grof P, Gruber O, Hashimoto R, Hauser J, Herms S, Hoffmann P, Hofmann A, Jamain S, Jiménez E, Kahn JP, Kassem L, Kittel-Schneider S, Kliwiczki S, König B, Kusumi I, Lackner N, Laje G, Landén M, Lavebratt C, Leboyer M, Leckband SG, Jaramillo CA, MacQueen G, Manchia M, Martinsson L, Mattheisen M, McCarthy MJ, McElroy SL, Mitjans M, Mondimore FM, Monteleone P, Nievergelt CM, Nöthen MM, Ösby U, Ozaki N, Perlis RH, Pfennig A, Reich-Erkelenz D, Rouleau GA, Schofield PR, Schubert KO, Schweizer BW, Seemüller F, Severino G, Shekhtman T, Shilling PD, Shimoda K, Simhandl C, Slaney CM, Smoller JW, Squassina A, Stamm T, Stopkova P, Tighe SK, Tortorella A, Turecki G, Volkert J, Witt S, Wright A, Young LT, Zandi PP, Potash JB, DePaulo JR, Bauer M, Reininghaus EZ, Novák T, Aubry JM, Maj M, Baune BT, Mitchell PB, Vieta E, Frye MA, Rybakowski JK, Kuo PH, Kato T, Grigoriu-Serbanescu M, Reif A, Del Zompo M, Bellivier F, Schalling M, Wray NR, Kelsoe JR, Alda M, Rietschel M, McMahon FJ, Schulze TG.

Genetic variants associated with response to lithium treatment in bipolar disorder: a genome-wide association study.

Lancet. 2016 Mar 12;387(10023):1085-93. doi: 10.1016/S0140-6736(16)00143-4. Epub 2016 Jan 22.

Sugai T, Suzuki Y, Yamazaki M, Shimoda K, Mori T, Ozeki Y, Matsuda H, Sugawara N, Yasui-Furukori N, Minami Y, Okamoto K, Sagae T, Someya T.

Difference in prevalence of metabolic syndrome between Japanese outpatients and inpatients with schizophrenia: A nationwide survey.

Schizophrenia Research. 2016 Mar;171(1-3):68-73. doi: 10.1016/j.schres.2016.01.016. Epub 2016 Jan 22.

Osone A, Arai R, Hakamada R, Shimoda K.

Impact of lifestyle-related disease on conversion and reversion in Japanese patients with mild cognitive impairment: 12 months of follow-up

International Journal of Geriatric Psychiatry. 2016 Jul;31(7):740-8. doi: 10.1002/gps.4386. Epub 2015 Nov 22.

Sugawara N, Yasui-Furukori N, Yamazaki M, Shimoda K, Mori T, Sugai T, Matsuda H, Suzuki Y, Minami Y, Ozeki Y, Okamoto K, Sagae T, Someya T.

Attitudes toward metabolic adverse events among patients with schizophrenia in Japan.

Neuropsychiatric Disease and Treatment. 12: 427–436, 2016

Ozeki Y, Sekine M, Fujii K, Watanabe T, Okayasu H, Takano Y, Shinozaki T, Aoki A, Aoki H, Mori H, Akiyama K, Homma H, Shimoda K.

Phosphoserine phosphatase activity is elevated and negatively correlated with serum D-serine concentration in schizophrenia patients.

Psychiatry Research. 237: 344-350, 2016

Nonaka-Hashida S, Sekine M, Ozeki Y, Fujii K, Akiyama K, Shimoda K, Tsunoda M, Katane M, Saitoh Y, Miyamoto T, Homma H.

Plasma concentrations of three methylated arginines, endogenous nitric oxide synthase inhibitors, in schizophrenic patients under antipsychotic drug treatment.

Psychiatry Research. 2016 Apr 30;238:203-10. doi: 10.1016/j.psychres.2016.02.029. Epub 2016 Feb 18.

Osone A, Arai R, Hakamada R, Shimoda K.

Cognitive and brain reserve in conversion and reversion in patients with mild cognitive impairment over 12 months of follow-up

J Clin Exp Neuropsychol. 2016 Jun 13:1-10. [Epub ahead of print]

Takano Y, Ozeki Y, Sekine M, Fujii K, Watanabe T, Okayasu H, Shinozaki T, Aoki A, Akiyama K, Homma H, Shimoda K.

Multi-regression analysis revealed a relationship between l-serine and methionine, a component of one-carbon metabolism, in the normal control but not in the schizophrenia

Annals General Psychiatry. 2016 Aug 31;15(1):23. doi: 10.1186/s12991-016-0113-3. eCollection 2016.

Nishimura M, Ueda M, Saruwatari J, Nakashima H, Ogusu N, Aoki A, Tsuchimine S, Matsuda K, Ono T, Oniki K, Shimoda K, Yasui-Furukori N.

Different effects of cytochrome P450 2D6 genotypes on the pharmacokinetics of paroxetine in Japanese patients with major depressive disorder: A population pharmacokinetic analysis.

Pharmacogenet Genomics. 2016 Sep;26(9):403-13. doi: 10.1097/FPC.0000000000000228

Akiyama K, Saito S, Saito A, Ozeki Y, Watanabe T, Fujii K, Honda G, Shimoda K.

Predictive value of premorbid IQ, negative symptoms, and age for cognitive and social functions in Japanese patients with schizophrenia: A study using the Japanese version of the Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia.

Psychiatry Research. 2016 Nov 1. pii: S0165-1781(16)30546-7. doi: 10.1016/j.psychres.2016.10.070. [Epub ahead of print]

Sugai T, Suzuki Y, Yamazaki M, Shimoda K, Mori T, Ozeki Y, Matsuda H, Sugawara N, Yasui-Furukori N, Minami Y, Okamoto K, Sagae T, Someya T.

High prevalence of lifestyle-related disease in Japanese outpatients with schizophrenia: a nationwide survey PLoS One. 2016 Nov 17;11(11):e0166429. doi: 10.1371/journal.pone.0166429. eCollection 2016.

Hicks JK, Sangkuhl K, Swen JJ, Ellingrod VL, Müller DJ, Shimoda K, Bishop JR, Kharasch ED, Skaar TC, Gaedigk A, Dunnenberger HM, Klein TE, Caudle KE, Stigler JC.

Clinical Pharmacogenetics Implementation Consortium Guideline (CPIC®) for CYP2D6 and CYP2C19 Genotypes and Tricyclic Antidepressants: 2016 Update

Clinical Pharmacology Therapeutics. 2016 Dec 20. doi: 10.1002/cpt.597.

Watanabe T, Ishiguro S, Aoki A, Ueda M, Hayashi Y, Akiyama K, Shimoda K.
1019C/G (rs6295) promoter polymorphism of the 5-HT1A receptor G/G genotype is associated with panic disorder: an association study in a Japanese population.
Psychiatry Investigation 2017 Jan;14(1):86-92. doi: 10.4306/pi.2017.14.1.86. Epub 2016 Dec 29.

<和文原著>

篠崎隆央、岡安寛明、下田和孝
繰り返す抑うつ症状に対して様々なアプローチを試みた双極性障害の1例
精神科臨床サービス 16 : 77-79, 2016

川俣安史、岡安寛明、深堀能立、釜井隆男、下田和孝
抑うつ状態が難治しlate-onset hypogonadism症候群の診断に至った双極性障害の1例
精神科臨床サービス 16 : 80-83, 2016

<総説>

石川高明、篠崎将貴、下田和孝
Venlafaxineの薬物動態
臨床精神薬理 19 : 407-412, 2016

佐伯吉規
FAST FACT アカシジア
緩和ケアプラス 26 : 444, 2016

<その他>

篠崎将貴、尾関祐二、下田和孝
Donepezilなどアセチルコリンエステラーゼ阻害薬は統合失調症の認知機能改善に効果があるのか
臨床精神薬理 19 : 203-205, 2016

渡邊崇、下田和孝
Topiramateに気分安定作用があるか？
臨床精神薬理 19 : 450-452, 2016

萩野谷真人、大曾根彰、下田和孝
Atomoxetineの投与により睡眠障害が改善されるか？
臨床精神薬理 19 : 821-822, 2016

藤井久彌子、尾関祐二、篠崎隆央、下田和孝
統合失調症に、memantineは効果があるか。
臨床精神薬理 19 : 1169-1170, 2016

渡邊崇、下田和孝
Gabapentinに気分安定作用があるか？
臨床精神薬理 19 : 1479-1480, 2016

萩野谷真人、大曾根彰、下田和孝
Suvorexant は睡眠時無呼吸症候群に対して安全か？
臨床精神薬理 19 : 1733-1734, 2016

大曾根彰、下田和孝

獨協医科大学病院認知症疾患医療センターの活動状況

下都賀郡市医師会報 174 : 53-56, 2016

下田和孝

第23回多文化間精神医学会を開催して

とちぎ精神衛生 42 : 12, 2015・2016

藤平明広

平成28年熊本地震～DPAT獨協医科大学病院チーム活動報告

とちぎ精神衛生 42 : 18, 2015・2016

<分担執筆など>

尾関祐二、下田和孝

高次脳機能障害

看護学生のための神経内科学（編集 平田幸一）、p100-106、中外医学社、東京、2016

Black DW, Grant JE

高橋三郎、下田和孝、大曾根彰

DSM-5 ガイドブック ―診断基準を使いこなすための指針、医学書院、東京、2016

ISBN: 978-4-260-02486-0

<国際学会発表>

Akiyama K, Saito A, Kuratomi G, Saito S, Ozeki Y, Watanabe T, Fujii K, Shimoda K.

Association of the Genetic Variants on 22q11.2 Chromosomal Regions with Cognitive Function in Japanese Patients with Schizophrenia.

71st annual meeting of Society of Biological Psychiatry, Atlanta, Georgia, USA, May 12-14, 2016

Watanabe T, Pierce J, Inoue Y, Hayashi Y, Aoki A, Ishiguro S, Ueda M, Shinozaki M, Akiyama K, Kato K, Tsuchimine S, Yasui-Furukori N, Shimoda K.

Pharmacokinetics of mirtazapine and its hydroxylated metabolite in Japanese psychiatric patients treated with mirtazapine.

30th congress of Collegium Internationale Neuropsychopharmacologicum Seoul, Korea, July 3-5, 2016

Ihara H, Ogata H, Gito M, Sayama M, Murakami N, Nagai T, Ayabe T, Oto Y, Shimoda K.

Aberrant, autistic, and food-related behaviors in adults with Prader-Willi syndrome. The effects of age and genotype.

2016 International Prader-Willi Syndrome Organisation Conference Toronto, Canada, July 21-22, 2016

<国内学会シンポジウム>

下田和孝

精神科専門医に求められる知識 ―臨床精神神経薬理学―

第112回日本精神神経学会学術総会、幕張、2016年6月2日－4日

佐伯吉規

疼痛と睡眠 双方向の関係とその臨床的意味 がん性疼痛と不眠

第41回日本睡眠学会定期学術集会、東京、2016年7月7日－8日

佐伯吉規

サイコオンコロジーにおけるポリファーマシーを考える

中止が困難な向精神薬について

第29回日本サイコオンコロジー学会総会、北海道、2016年9月23日－24日

下田和孝

個体差・人種差を見据えた精神科薬物療法（会長講演）

第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1日－2日

佐伯吉規

変わっていく健康観と死生観　がんと精神科

第30回日本臨床内科医学会、東京、2016年10月9日－10日

染矢俊幸、須貝拓朗、鈴木雄太郎、森隆夫、松田ひろし、菅原典夫、古郡規雄、下田和孝、尾関祐二、岡本呉賦、寒河江豊昭、山崎學

統合失調症患者の身体リスクと外来・入院における差異：医療体制の移行において配慮すべきこと

第5回日本精神科医学会学術大会、仙台、2016年11月16日－17日

古郡規雄、菅原典夫、須貝拓朗、鈴木雄太郎、山崎學、森隆夫、松田ひろし、岡本呉賦、寒河江豊明、尾関祐二、下田和孝、染矢俊幸

統合失調症と身体合併症（メタボリック症候群）—精神科医と当事者の認識の違い—

第5回日本精神科医学会学術大会、仙台、2016年11月16日－17日

菅原典夫、古郡規雄、山崎學、下田和孝、寒河江豊昭、森隆夫、須貝拓朗、松田ひろし、鈴木雄太郎、尾関祐二、岡本呉賦、染矢俊幸

統合失調症患者のメタボリック症候群予防に関する研究　～栄養指導介入の結果～

第5回日本精神科医学会学術大会、仙台、2016年11月16日－17日

鈴木雄太郎、須貝拓朗、山崎學、下田和孝、森隆夫、尾関祐二、松田ひろし、岡本呉賦、寒河江豊昭、菅原典夫、古郡規雄、染矢俊幸

抗精神病薬多剤併用療法が統合失調症患者の心電図に与える影響

第26回日本臨床精神神経薬理学会、大分、2016年11月17日－18日

菅原典夫、古郡規雄、山崎學、下田和孝、寒河江豊昭、森隆夫、須貝拓朗、松田ひろし、鈴木雄太郎、尾関祐二、岡本呉賦、染矢俊幸

統合失調症患者のメタボリック症候群予防に関する研究　～栄養指導介入の結果～

第26回日本臨床精神神経薬理学会、大分、2016年11月17日－18日

鈴木雄太郎、須貝拓朗、山崎學、下田和孝、森隆夫、尾関祐二、松田ひろし、岡本呉賦、寒河江豊昭、菅原典夫、古郡規雄、染矢俊幸

抗精神病薬多剤併用大量療法が統合失調症患者の心電図に与える影響

第26回日本臨床精神神経薬理学会、大分、2016年11月17日－18日

渡邊崇、上田幹人、石黒慎、林有希、青木顕子、篠崎將貴、秋山一文、加藤和子、井上義政、下田和孝
個別化医療を志向した精神科薬物療法に向けて

第37回日本臨床薬理学会学術総会、米子、2016年12月1日－3日

＜国内学会発表＞

篠崎将貴、石川高明、桂大輔、柳一徳、麻生好正、下田和孝
抑うつ症状と低ナトリウム血症を契機に発見されたACTH単独欠損症の1例
第37回栃木県心身医学研究会、壬生、2016年1月23日

藤井久彌子、尾関祐二、岡安寛明、高野有美子、篠崎隆央、下田和孝
ラモトリギンによる皮膚症状の発現予測因子の検討
第69回栃木県精神医学会・第34回栃木気分障害研究会、宇都宮、2016年2月20日

尾関祐二、藤井久彌子、関根正恵、渡邊崇、高野有美子、岡安寛明、篠崎隆央、青木顕子、森玄房、
秋山一文、本間浩、下田和孝
統合失調症における末梢各種アミノ酸濃度と診断との関連および各種アミノ酸相互作用の共分散構造分析を
用いた解析
第11回日本統合失調症学会、前橋、2016年3月25日－26日

竹内祥貴、藤平明広、下田和孝
心気症状の強い季節性感情障害に対し高照度光療法が著効した1例
第1回栃木県精神科医療フォーラム、下野、2016年6月6日

上田秀一、江原鮎香、橘篤導、川俣安史、下田和孝、瀬尾芳輝
ラット発達早期の揺さぶり刺激は皮質および皮質下に一過性の脳出血を引き起こす－神経病理的解析－
第46回日本神経精神薬理学会年会、ソウル、2016年7月2日－3日

川俣安史、上田秀一、下田和孝
ラット発達早期の揺さぶり刺激は成長期の不安行動を引き起こす－行動解析－
第46回日本神経精神薬理学会年会、ソウル、2016年7月2日－3日

篠崎将貴、岡安寛明、下田和孝
Clomipramineが著効した未成年の強迫症の1例
第107回東京精神医学会、東京、2016年7月16日

大曾根彰、下田和孝
認知症診断における病前知能評価の重要性
第36回精神科診断学会、東京、2016年8月5日－6日

齋藤聡、藤井久彌子、尾関祐二、大森健一、森玄房、加藤和子、黒田仁一、朝日晴彦、佐藤勇人、
下田和孝、秋山一文
双極性障害におけるリチウム反応良好群と不良群の認知機能、社会的転帰、抗精神病薬の影響の比較
第38回日本生物学的精神医学会・第59回日本神経化学学会大会 合同年会、福岡、2016年9月8日－10日

尾関祐二、関根正恵、藤井久彌子、高野有美子、岡安寛明、篠崎隆央、渡邊崇、青木顕子、青木秀明、森玄房、
秋山一文、本間浩、下田和孝
統合失調症における末梢アミノ酸濃度と臨床症状との関連－共分散分析による解析－
第38回日本生物学的精神医学会・第59回日本神経化学学会大会 合同年会、福岡、2016年9月8日－10日

佐伯吉規、高橋徹、星野奈月、兼村俊範、中山博文、山田健志、下田和孝、向山雄人、奈良林至
がん緩和領域における静坐不能症状へのrotigotine貼付剤の使用状況
第28回日本サイコオンコロジー学会総会、広島、2016年9月18日－19日

石川高明、竹内祥貴、藤平明広、下田和孝

言語的コミュニケーションの困難さによって、診断および治療に難渋した統合失調症の1例

第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1日－2日

長谷川千絵、下田和孝

狐憑きの憑依妄想を呈した統合失調症の一例

第23回多文化間精神医学会学術総会、宇都宮、2016年10月1日－2日

渡邊崇、上田幹人、石黒慎、林有希、青木顕子、篠崎將貴、秋山一文、加藤和子、下田和孝

パロキセチン治療の長期予後へのゲノム薬理学的因子、環境因子と初期治療反応性の影響

第26回日本臨床精神神経薬理学会、大分、2016年11月17日－18日

渡邊崇、井上義政、Pierce Jason、林有希、青木顕子、石黒慎、上田幹人、篠崎將貴、秋山一文、加藤和子、土嶺章子、古郡規雄、下田和孝

日本人におけるミルタザピンとそのグルクロン酸抱合化物質を含む代謝物の血漿中濃度に影響を与える因子

第26回日本臨床精神神経薬理学会、大分、2016年11月17日－18日

藤井久彌子、永島隆秀、尾関祐二、岡安寛明、篠崎隆央、下田和孝

統合失調症がジストニアを呈した場合、必ず薬剤性なのか？－顕著なジストニアを呈した一症例の全シーケンス解析の検討－

第26回日本臨床精神神経薬理学会、大分、2016年11月17日－18日

川俣安史、石川高明、宮本雅之、平田幸一、下田和孝

うつ症状および夜間の幻視を呈した病初期レビー小体型認知症の1例

第29回日本総合病院精神医学会総会、東京、2016年11月25日－26日

篠崎將貴、渡邊崇、井上義政、Pierce Jason、林有希、青木顕子、石黒慎、上田幹人、秋山一文、

土嶺章子、古郡規雄、下田和孝

日本人におけるミルタザピン及びそのグルクロン酸抱合化物質を含む代謝物の血漿中濃度に関与する因子の検討

第37回日本臨床薬理学会学術総会、米子、2016年12月1日－3日

<公開講座など>

萩野谷真人

より良い睡眠のために

FMひたち ひたち健康ナビ、2016年2月1日

<その他の発表・講演>

下田和孝

精神科専門医に求められる抗うつ薬の適正使用

平成28年度奈良県医師会精神神経科部会学術講演会、奈良、2016年8月18日

下田和孝

抗うつ薬の合理的な使用について

札幌うつ病研究会、札幌、2016年9月7日

藤平明広、伊谷野和弘、白濱雅子、堤崎陽子、下田和孝

平成28年熊本地震における災害派遣精神医療チーム（DPAT）活動報告

平成28年度 第8回獨協医科大学病院 医療安全講習会、壬生、2016年11月21日

編集後記

初めて編集に関わらせていただきました。校正をお願いするにあたり、勝手にわからず直前になってしまうなど、大変ご迷惑をおかけしましたが、諸先生方のお力添えのお陰で、どうにか無事に編集を終えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。入局したてですので、同門会誌を通じて知る医局の出来事も多く、楽しく読ませていただきました。次の一年も皆にとって良い年となりますように。

文責：K.H.

この度同門会誌、編集作業に参加させていただきました。校正作業は各先生方のお人柄を想像しつつ、楽しくやらせていただきました。その分、校正も雑になってしまい、編集チームの先生方には多大な苦勞をお掛けしたことをこの場を借りて陳謝致します。

文責：S.T.

初めて編集作業に参加させていただきました。至らないところもありましたが無事に編集を終えることができ、嬉しく思っています。今回の同門会誌を制作するにあたって執筆に関わってくださった皆様に心から感謝申し上げます。次回の同門会誌も温かく見守っていただけると幸いです。

文責：S.R.

第7号から編集に関わらせて頂いている。第9号では主に校正を担当した。校正作業は、誤字・脱字、文法の間違いなどに気を配る点では、指定医レポートの作成と似ている。しかし、決定的な違いがある。それは、諸先輩方の精神科医ならではの「面白く、興味深く、内容の深い」原稿を、発行前に誰よりも早く読めることである。今年もワクワク(?)しながら校正した。主に編集に当たったK先生、お疲れ様でした。

文責：S.M.

ここ最近は校正のみ参加しております。細かいところ（自己体重管理を除く）が気になりまして、ボクの悪い癖（*▽*）

ご多忙のところ、ご寄稿頂いた皆様へ厚く御礼申し上げます。

文責：F.A.

獨協医科大学精神神経医学教室 同門会誌 第9号

平成30年1月15日発行

編集発行人 獨協医科大学精神神経医学教室同門会

発行所 獨協医科大学精神神経医学教室同門会

獨協医科大学精神神経医学教室内

栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地

TEL 0282-86-1111（代表）

印刷所 (株)松井ビ・テ・オ・印刷

栃木県宇都宮市陽東5丁目9番21号

TEL 028-662-2511

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。

 **astellas**
アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/


Abbott

NUTRITION



バニラ味 コーヒー味 メロン味 黒糖味 パナナ味 ストロベリー味

※味の違いは香料によるもので、本剤にはバニラ、コーヒー、メロン、黒糖、バナナ、ストロベリーなどの成分は含まれておりません。

経腸栄養剤(経口・経管両用)

薬価基準収載

エンシュア®・H

「効能・効果」、「用法・用量」、禁忌を含む「使用上の注意」等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

アボット ジャパン株式会社

東京都港区三田三丁目5番27号

製造元

株式会社 明治

2017年4月作成



hvc
human health care

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病气とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病气を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

製薬会社は、
幸せな未来を
描けているだろうか？

MSDは、医薬品やワクチンの提供を通じて、日本の、
そして世界の医療ニーズにお応えしています。そこで
思い描いているのは、皆さまのすこやかな未来。
薬の力を未来の力につなげるために。これからも
MSDは、時代を切りひらく革新性と科学への揺るぎ
ない信念で、画期的な新薬やワクチンの開発に
取り組んでいきます。

新薬で、未来をひらく。

MSD株式会社 東京都千代田区九段北一丁目13番12号 北の丸スクエア www.msd.co.jp





持続性抗精神病薬

劇薬、処方箋医薬品

注意—医師等の処方箋により使用すること

エビリファイ® 持続性水懸筋注用

300mg・400mg

300mg シリンジ・400mg シリンジ

ABILIFY® prolonged release aqueous suspension for IM injection

〈アリピプラゾール水和物持続性注射剤〉薬価基準収載

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意及び用法・用量に関連する使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。



製造販売元

大塚製薬株式会社

東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先

大塚製薬株式会社 医薬情報センター

〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー



私たちの使命は

「生きる喜びを、もっと Do more, feel better, live longer」

Do more,
feel better,
live longer

グラクソ・スミスクラインは、科学に根ざしたグローバルヘルスケア企業です。

「生きる喜びを、もっと」を使命に、世界中の人々がより充実して心身ともに健康で長生きできるよう、生活の質の向上に全力を尽くしていきます。

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR
<http://jp.gsk.com>



大日本住友製薬



抗精神病剤

劇薬・処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

ロナセン[®] 錠2mg・4mg・8mg
散2%

LONASEN[®] プロナンセリン製剤

●「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)

大日本住友製薬株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉

くすり情報センター

TEL 0120-034-389

受付時間/月—金 9:00—17:30(祝・祭日を除く)
【医療情報サイト】<https://ds-pharma.jp/>

2017.3作成



Better Health, Brighter Future



タケダから、世界中の人々へ。 より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から治療・治癒にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに答えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

つかんだ自信を、確信に



社会不安障害の
効能・効果を
取得しました

選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI) 薬価基準収載

創薬、処方箋医薬品[※]

レクサプロ錠 10mg
LEXAPRO[®] Tab. 10mg エスシタロプラムシュウ酸塩
・フィルムコーティング錠

注) 注意一医師等の処方箋により使用すること

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. モノアミン酸化酵素(MAO)阻害剤を投与中あるいは投与中止後14日間以内の患者(「相互作用」の項参照)
3. ビモジを投与中の患者(「相互作用」の項参照)
4. QT延長のある患者(先天性QT延長症候群等)〔心室頻拍(torsades de pointesを含む)、心電図QT間隔の過大な延長を起こすことがある。〕

【効能・効果】

うつ病・うつ状態、社会不安障害

【効能・効果に関連する使用上の注意】

1. 抗うつ剤の投与により、24歳以下の患者で、自殺念慮、自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため、本剤の投与にあたっては、リスクとベネフィットを考慮すること。〔「その他の注意」の項参照〕
2. 海外で実施された6～17歳のうつ病性障害患者を対象としたプラセボ対照臨床試験において、6～11歳の患者で有効性が確認できなかったとの報告がある。本剤は12歳未満のうつ病性障害患者に投与する際には適応を慎重に検討すること。〔「小児等への投与」の項参照〕
3. 社会不安障害の診断は、DSM^{*}等の適切な診断基準に基づき慎重に実施し、基準を満たす場合にのみ投与すること。

* DSM: American Psychiatric Association (米国精神医学会)のDiagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (精神疾患の診断・統計マニュアル)

【用法・用量】

通常、成人にはエスシタロプラムとして10mgを1日1回夕食後に経口投与する。なお、年齢・症状により適宜増減するが、増量は1週間以上の間隔をあけて行い、1日最高用量は20mgを超えないこととする。

【用法・用量に関連する使用上の注意】

1. 本剤の投与量は必要最小限となるよう、患者ごとに慎重に観察しながら投与すること。
2. 肝機能障害患者、高齢者、遺伝的にCYP2C19の活性が欠損していることが判明している患者(Poor Metabolizer)では、本剤の血中濃度が上昇し、QT延長等の副作用が発現しやすいおそれがあるため、10mgを上限とすることが望ましい。また、投与に際しては患者の状態を注意深く観察し、慎重に投与すること。〔「慎重投与」「高齢者への投与」及び「薬物動態」の項参照〕

【使用上の注意】(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 著明な徐脈等の不整脈又はその既往歴のある患者、QT延長を起こすことが知られている薬剤を投与中の患者、うつ性心不全、低カリウム血症の患者〔本剤の投与によりQTが延長する可能性がある。〕〔「重要な基本的注意」の項参照〕
- (2) 肝機能障害のある患者〔本剤のクリアランスが低下し、血中濃度が上昇するおそれがある。〕〔「薬物動態」の項参照〕
- (3) 高度の腎機能障害のある患者〔本剤のクリアランスが低下し、血中濃度が上昇するおそれがある。〕〔「薬物動態」の項参照〕
- (4) 自殺念慮又は自殺企図の既往のある患者、自殺念慮のある患者〔自殺念慮、自殺企図があらわれることがある。〕
- (5) 躁うつ病患者〔躁転、自殺企図があらわれることがある。〕
- (6) 脳の器質的障害又は統合失調症の素因のある患者〔精神症状が増悪することがある。〕
- (7) 衝動性が高い併存障害を有する患者〔精神症状が増悪することがある。〕
- (8) てんかん等の痙攣性疾患又はこれらの既往歴のある患者〔痙攣発作を起こすことがある。〕
- (9) 出血の危険性を高める薬剤を併用している患者、出血傾向又は出血性素因のある患者〔出血傾向が増強するおそれがある。〕
- (10) 高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕
- (11) 小児〔「小児等への投与」の項参照〕

2. 重要な基本的注意

- (1) うつ症状を呈する患者は希死念慮があり、自殺企図のおそれがあるので、このような患者は投与開始早期ならびに投与量を変更する際には患者の状態及び病態の変化を注意深く観察すること。
- (2) 不安、焦燥、興奮、パニック発作、不眠、易刺激性、敵意、攻撃性、衝動性、アカシジア(精神運動不穏、軽躁、躁病等)があらわれることが報告されている。また、因果関係は明らかではないが、これらの症状・行動を来した症例において、基礎疾患の悪化又は自殺念慮、自殺企図、他害行為が報告されている。患者の状態及び病態の変化を注意深く観察するとともに、これらの症状の増悪が観察された場合には、服薬量を増量せず、徐々に減量し、中止するなど適切な処置を行うこと。
- (3) 自殺目的での過量服用を防ぐため、自殺傾向が認められる患者に処方する場合には、1回分の処方日数を最小限にとどめること。
- (4) 家族等に自殺念慮や自殺企図、興奮、攻撃性、易刺激性等の行動の変化及び基礎疾患悪化があらわれるリスク等について十分説明を行い、医師と緊密に連絡を取り合うよう指導すること。
- (5) 眠気、めまい等があらわれることがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には十分注意させること。
- (6) 投与中止(突然の中止)により、不安、焦燥、興奮、浮動性めまい、錯覚、頭痛及び悪心等があらわれることが報告されている。投与を中止する場合には、突然の中止を避け、患者の状態を観察しながら徐々に減量すること。
- (7) 本剤投与によりQT延長がみられることから、心血管系障害を有する患者に対しては、本剤の投与を開始する前に心血管系の状態に注意を払うこと。

3. 相互作用

本剤は主に肝代謝酵素CYP2C19で代謝され、CYP2D6及びCYP3A4も代謝に関与している。〔「薬物動態」の項参照〕

(1) 併用禁忌(併用しないこと) 〔モノアミン酸化酵素(MAO)阻害剤: セレギリン塩酸塩(「エフビー」/ビモジ「オーラップ」)〕

- (2) 併用注意(併用に注意すること) セロトニン作用薬(トリプタン系薬剤: スマトリプタン等、選択的セロトニン再取り込み阻害剤、セロトニン前駆物質(「トリプトファン」)含有製剤又は食品等、トリアゾラニド、リネゾリド、炭酸リチウム、セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort)、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品等/メチルチオニウム塩化物水和物(メチレンブルー)/三環系抗うつ剤/イミプラミン塩酸塩、クロミプラミン塩酸塩、ノルトリプチリン塩酸塩等/フェノチアジン系抗精神病薬/リスベリドン/ブチロフェノン系抗精神病薬/ハロペリドール/抗不整脈剤/フレカイニド酢酸塩、プロパフェノン塩酸塩/β遮断薬/メプロロロール酒石酸塩/メチジン/オメプラゾール/ランソプラゾール/チクロピジン塩酸塩/ワルファリン/出血傾向が増強する薬剤/非定型抗精神病薬、フェノチアジン系抗精神病薬、三環系抗うつ剤、アスピリン等の非ステロイド系抗炎症剤、ワルファリン等/アルコール(飲酒)

4. 副作用

うつ病・うつ状態患者を対象とした国内臨床試験(4試験)及び社会不安障害患者を対象とした国内臨床試験(2試験)において、総症例1099例中、711例(65.2%)に臨床検査値異常を含む副作用が認められている。その主なものは頻度248例(22.6%)、悪心228例(20.7%)、浮動性めまい93例(8.5%)、頭痛90例(8.2%)、口渇69例(6.3%)、倦怠感63例(5.7%)等であった。(承認時)うつ病・うつ状態患者における製造販売後調査において、3703例中584例(15.8%)に臨床検査値異常を含む副作用が認められている。その主なものは悪心1178例(4.8%)、頻度101例(2.7%)、倦怠感36例(1.0%)等であった。(第6回安全性定期報告時)

- (1) 重大な副作用 ① 痙攣(1%未満) 痙攣があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 ② 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)(頻度不明) 低ナトリウム血症、頭痛、集中力の欠如、記憶障害、錯乱、幻覚、痙攣、失神等を伴う抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、水分摂取の制限等適切な処置を行うこと。 ③ セロトニン症候群(頻度不明) 不安、焦燥、興奮、振戦、ミオクローヌス、高熱等のセロトニン症候群があらわれることがある。セロトニン作用薬との併用時に発現する可能性が高くなるため、特に注意すること。〔「相互作用」の項参照〕。異常が認められた場合には投与を中止し、水分補給等の全身管理とともに適切な処置を行うこと。 ④ QT延長(頻度不明) QT延長、心室頻拍(torsades de pointesを含む)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

● その他の使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)
持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
☎ 0120-189-522(くすり相談窓口)

販売(資料請求先)
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10
☎ 0120-753-280(くすり相談センター) ☎ 541-8505

プロモーション提携
吉富薬品株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10

提携
Lundbeck
デンマーク

2015年11月作成(N9)

漢方医学と西洋医学の融合により 世界で類のない最高の医療提供に貢献します



自然と健康を科学する

漢方のツムラ

<http://www.tsumura.co.jp/>

●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

(2016年9月制作) OWCAb04-K®

Lilly



人と社会をつなぐ、
NEUROSCIENCE



セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤

薬価基準収載

サインバルタ[®]
カプセル20mg
カプセル30mg

Cymbalta[®] テュロキセチン塩酸塩カプセル

創薬/処方箋医薬品^{※1}

※1 注意・処方箋等の処方箋により使用すること

抗精神病薬・双極性障害治療薬

創薬/処方箋医薬品（注意・医師等の処方箋により使用すること）

薬価基準収載

ジプレキサ[®]
オランザピン製剤

ZYPREXA[®] (OLANZAPINE)

錠 2.5mg
錠 5mg
錠 10mg
細粒 1%
ザイデス錠 2.5mg
ザイデス錠 5mg
ザイデス錠 10mg



注意欠陥/多動性障害治療剤
(選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤)

薬価基準収載

ストラテラ[®]
アトモキセチン塩酸塩

カプセル 5mg・10mg
25mg・40mg
内用液 0.4%

創薬/処方箋医薬品：注意・医師等の処方箋により使用すること

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については各製品添付文書をご参照下さい。

（資料請求先）

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

Lilly Answers

リリー・アンswers
日本イーライリリー-医薬情報総合窓口
www.lillyanswers.jp

医療関係者向け 0120-360-605^{※1}

受付時間：月曜日～金曜日 8:45～17:30^{※2}

※1 通話料は無料です。携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

※2 夜間および土日祭日は対応しません。

CNS-A052 (R0)
2016年1月作成



セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(SNRI) 薬価基準収載

イフェクサー[®]SR カプセル 37.5 mg・75 mg

EFFEXOR[®] SR CAPSULES

ベンラファキシン塩酸塩徐放性カプセル

劇薬 処方箋医薬品

注意－医師等の処方箋により使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先：製品情報センター

2016年11月作成
EFX72F022C

明日をもっとすやかに

meiji



ノルアドレナリン セロトニン作動性抗うつ剤
劇薬、処方箋医薬品^(注)

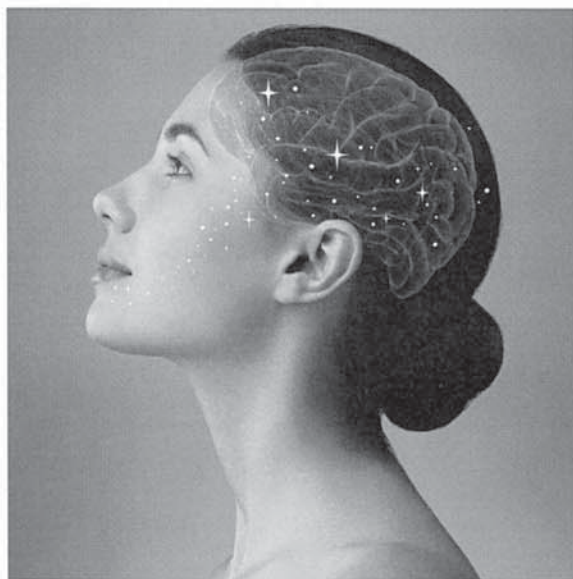
薬価基準収載

リフレックス[®]錠15mg・30mg

REFLEX[®] TABLETS 15mg・30mg

ミルタザピン錠

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること



抗精神病剤

劇薬 処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

シクレスト[®]舌下錠
5mg・10mg

SYCREST[®] SUBLINGUAL TABLETS 5mg・10mg

アセナビンマレイン酸塩舌下錠

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

[資料請求先]

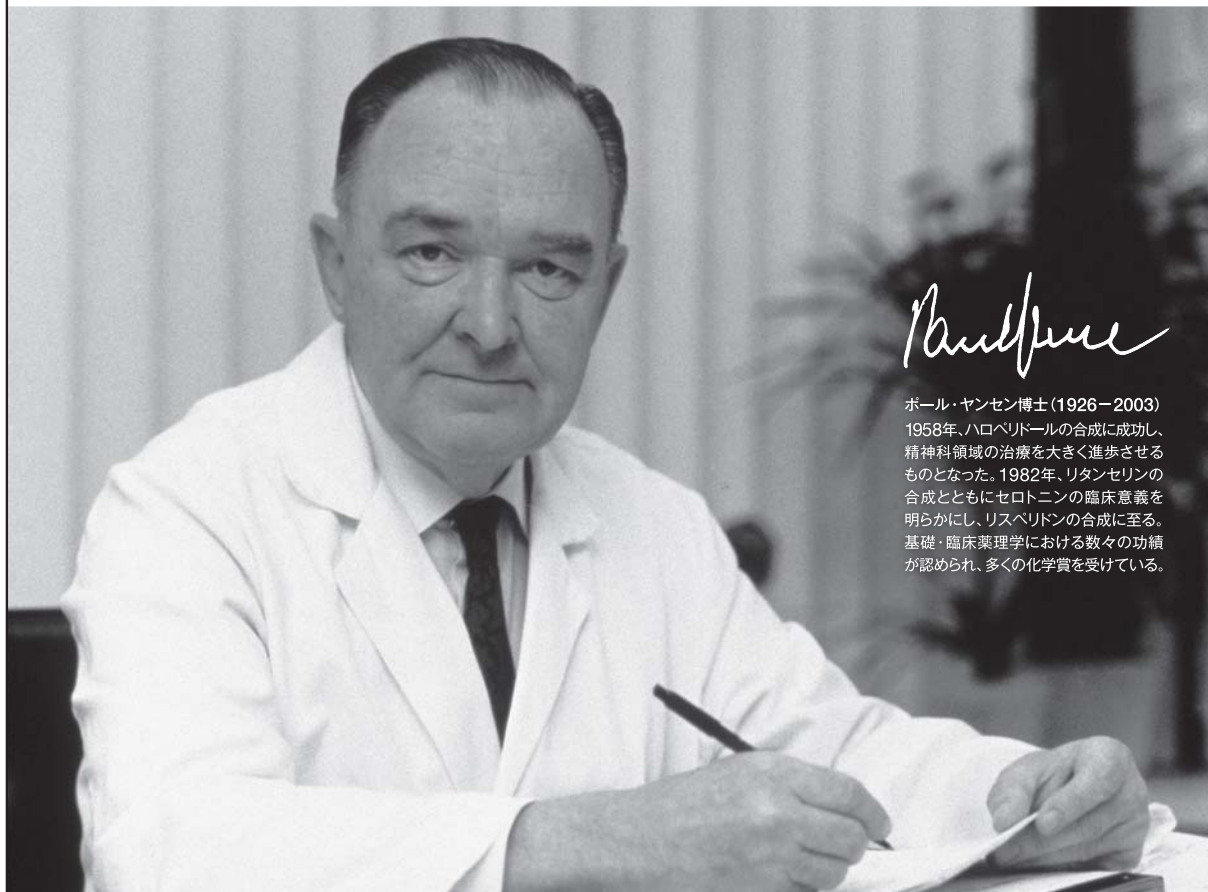
Meiji Seika ファルマ株式会社

東京都中央区京橋 2-4-16

<http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

くすり相談室 電話(0120)093-396、(03)3273-3539

作成：2017.4



Paul Janssen

ポール・ヤンセン博士(1926-2003)
1958年、ハロペリドールの合成に成功し、
精神科領域の治療を大きく進歩させる
ものとなった。1982年、リタンセリンの
合成とともにセロトニンの臨床意義を
明らかにし、リスベリドンの合成に至る。
基礎・臨床薬理学における数々の功績
が認められ、多くの化学賞を受けている。

持効性抗精神病剤 劇薬 処方箋医薬品* 25mg
50mg
75mg
100mg
150mg
ゼプリオン® 水懸筋注 シリンジ
XEPLION® Aqueous Suspension for IM Injection
パリペリドンパルミチン酸エステル持効性懸濁注射液 [薬価基準収載]
*注意-医師等の処方箋により使用すること

抗精神病剤 劇薬 処方箋医薬品* 3mg
6mg
9mg
インヴェガ錠®
INVEGA® Tablets
パリペリドン徐放錠 薬価基準収載
*注意-医師等の処方箋により使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を
含む使用上の注意」等は製品添付
文書をご参照ください。

製造販売元 (資料請求先)
ヤンセンファーマ株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2
URL: <http://www.janssen.co.jp>

THE KAITEKI COMPANY

三菱ケミカルホールディングスグループ

精神科医療の
真のパートナーを
目指して

 田辺三菱製薬グループ



吉富薬品株式会社

大阪市中央区道修町3-2-10

<http://www.yoshitomi.jp/>